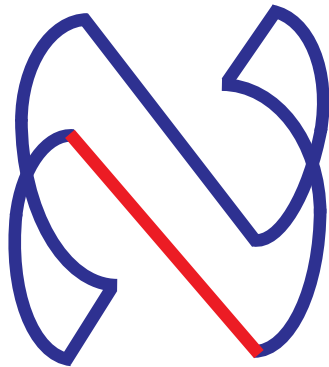


令和4年度
(2022年度)

公立大学法人沖縄県立看護大学
自己点検・評価検討委員会報告書
<専任教員と委員会の活動報告>



公立大学法人沖縄県立看護大学

1 研究, 社会及び学内教育活動業績

1) 制作要件

令和4年度の専任教員の「研究活動」と「社会活動」及び「学内教育活動」の一覧である。

(1) 各教員から提出されたものを修正せず掲載する。

(2) 職位名等は入れず, 氏名のみの表示とする。

2) 活動業績掲載順

【教養科目】			赤嶺 唯 …… 26
自然科学・情報科学系	栗島 一博 …… 1		
社会学・外国語	山口 賢一 …… 2	小児保健看護	上原 和代 …… 27
外国語	山城 綾子 …… 3		鈴木 ミナ子 …… 29
			神里 亜実 …… 30
【専門教養科目】			
疫学・情報	金城 芳秀 …… 4	成人保健看護	山本 敬子 …… 31
人体構造・機能	佐伯 宣久 …… 5		謝花 小百合 …… 32
			赤嶺 伊都子 …… 34
			大城 真理子 …… 35
【専門科目】			
基礎看護	金城 忍 …… 6		宮城 裕子 …… 37
	宮里 智子 …… 7		源河 朝治 …… 38
	栗原 幸子 …… 8		具志堅 翔子 …… 40
	山川 和歌子 …… 9		
	山田 ゆみこ …… 10	老年保健看護	田場 由紀 …… 41
精神保健看護	仲本 勉 …… 11		山口 初代 …… 43
			砂川 ゆかり …… 45
地域保健看護	牧内 忍 …… 12	島嶼保健看護/ 在宅保健看護	佐久川 政吉 …… 47
	知念 真樹 …… 13		松田 めぐみ …… 49
	岡崎 実子 …… 15		
	長濱 直樹 …… 17		
	池本 温美 …… 18	別科助産専攻	西平 朋子 …… 50
母性保健看護・助産	賀数 いづみ …… 19		大城 早苗 …… 52
	井上 松代 …… 20		宮國 友美 …… 53
	知念 久美子 …… 22	【学長】	
	下中 壽美 …… 23		神里 みどり …… 54
	當間 みゆき …… 25		

2 委員会活動報告

1) 制作要件

令和4年度の各委員会の活動の一覧である。

- (1) 各委員会委員長から提出されたものを修正せず掲載する。

2) 活動報告掲載順

全学自己点検・評価検討委員会	57
危機管理委員会	58
情報セキュリティ委員会	59
人事委員会	60
大学広報委員会	61
衛生委員会	62
入学試験委員会	63
ハラスメント防止・対策委員会	65
研究不正防止計画推進委員会	66
研究・研修委員会	67
紀要編集委員会	68
研究倫理審査委員会	69
地域連携協働センター運営委員会	70
仮) 島嶼保健看護研究開発センター企画等ワーキンググループ	71
国際交流室運営委員会	73
教務委員会	75
実習専門部会	77
学生委員会	79
学術情報委員会	81
別科助産専攻運営委員会	83
研究科教務委員会	84
研究科入学試験委員会	87
IR WG	88

3 科学研究費助成事業新規/継続課題一覧(令和4年度)

89

栗島一博

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - ・教育支援システムの研究開発、および同システムの利用履歴から得られる学習者の行動の分析

【学会等における活動】

- ・情報処理学会の会員

【社会活動】

- ・新型コロナ感染症支援：宮古保健所（5日）

【学内教育活動】

学部：看護大学ゼミナールⅠ、看護大学ゼミナールⅠⅠ、情報学、保健医療情報演習
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

情報セキュリティ委員会、大学広報委員会、入学試験委員会、1年次部会、IR WG

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

山口賢一

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文

- 1) 山口賢一 ポストコロニアル文学におけるスタンドポイントと批判的再帰性ーアイヌの漫画キャラクターと自然を通じた考察ー 環境社会学会第65回大会 プログラム・要旨集 2022年14-15ページ 2022年6月

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 山口賢一 ポストコロニアル文学におけるスタンドポイントと批判的再帰性ーアイヌの漫画キャラクターと自然を通じた考察ー 環境社会学会第65回大会 2022年6月 オンライン
- 2) Kenichi Yamaguchi, Tsutomu Nakamoto, and Norihisa Saeki, Social Capital and Self-efficacy of Nursing Students: Proposing Sociological Contribution to Interdisciplinary Research The 95th Annual Meeting of the Japan Sociological Society 2022年Osaka

5. その他研究活動

- 日本による沖縄と台湾の植民ガバナンス（データ収集・分析中）
- 漫画に表象される権力の多様化（学会発表予定）
- 琉神マブヤーの環境社会学的考察（文献検討・データ収集中）

【学会等における活動】

- ・日本社会学会の会員
- ・環境社会学会の会員
- ・2022 American Journal of Nursing (AJN) Book of Year Award, 1st Place for the Management and Leadership category with "Visionary Leadership in Healthcare: Excellence in Practice, Policy, and Ethics (2022)" (Chapter 12 Co-Author)

【社会活動】

- ・新型コロナウイルス感染症支援：八重山保健所（4日間）

【学内教育活動】

- 学部：看護大学ゼミナールⅠ、英語Ⅲ・Ⅳ、社会学、家族社会学演習
- 別科助産専攻：なし
- 博士前期課程：なし
- 博士後期課程：なし
- 研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
- 博士前期・後期課程修了者数：なし
- 研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

- 研究・研修委員会、国際交流室運営委員会、教務委員会、学生委員会、2年次部会
- アジア保健医療研究会顧問

【外部資金獲得】

- 1) 山口賢一（研究代表者）若手研究（2019～2022）日本による沖縄・台湾の植民統治における近代医療施設の役割

山城綾子

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
アメリカのリーディングプログラムと現代英米ヤングアダルト文学のテキスト研究

【学会等における活動】

- ・英語コーパス学会 会員
- ・英語圏児童文学学会 会員
- ・日本多読学会 会員

【社会活動】

【学内教育活動】

学部：看護大学ゼミナールⅠ、英語Ⅰ～Ⅲ
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

入学試験委員会、国際交流室運営委員会、学術情報委員会、学生委員会、2年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 山城綾子（研究代表者）基盤研究C（2018～2023）アメリカのリーディングプログラムと多読図書の効果的導入に関する研究

金城芳秀

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文（なし）

3. 著書（なし）

4. 学会発表

金城芳秀、李 廷秀、西川浩昭、佐伯圭一郎 看護学生によるシビリティの例示—教育学習環境におけるアクションリサーチから— 第87回日本健康学会総会 2022年11月 東京都

5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・日本健康学会：座長（第87回総会）
- ・日本看護科学学会社員：代議員
- ・日本看護科学学会学術集会：査読
- ・日本看護科学学会会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会：非常勤講師

【学内教育活動】

学部：看護大学ゼミナールⅠ・Ⅱ、疫学と保健医療情報、保健医療情報演習

別科助産専攻：研究への導入、保健情報学演習

博士前期課程：保健看護と研究Ⅰ、疫学と保健統計Ⅰ、保健看護情報

博士後期課程：新領域保健看護特論Ⅱ、保健看護と研究Ⅱ（デザイン編）（執筆編）

研究指導教員：博士前期課程（1人）、博士後期課程（1人）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、紀要編集委員会、研究倫理審査委員会

【学長奨励研究】

松田めぐみ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)禍で継続している自治会活動の実践

【外部資金獲得】

金城芳秀（研究代表者）基盤研究C（2019～2023）看護学生のシビリティ（civility）を育むアクションリサーチ

佐伯宣久

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

【社会活動】

- ・ 沖縄キリスト教短期大学：非常勤講師
- ・ 那覇市立病院：急病センター応援医師（小児科）
- ・ 沖縄県衛生環境研究所：倫理審査委員会委員

【学内教育活動】

学部：人体の構造と機能、人体の構造と機能演習Ⅰ・Ⅱ、疾病論Ⅰ・Ⅱ、微生物と免疫
別科助産専攻：なし
博士前期課程：実践臨床病態生理学、生体機能とリスク
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、情報セキュリティ委員会、入学試験委員会、学術情報委員会、IR WG

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

金城 忍

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
現在取り組んでいるテーマ：看護技術修得を促す教育方法について

【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学会：教育制度委員会副委員長
- ・日本看護学教育学会：会員
- ・日本看護科学学会：会員
- ・日本感染看護学会：会員

【社会活動】

- ・令和4年度 沖縄県看護教員養成講習会 講師：「看護論」
- ・令和4年度 沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師：「看護論」

【学内教育活動】

学部：看護学原論、早期体験実習（責任者のみ）、生活援助・療養援助技術Ⅰ、
生活援助・療養援助技術Ⅱ、生活援助・療養援助技術実習（9月および責任者）、
生活援助・療養援助技術Ⅲ
博士前期課程：継続保健看護教育Ⅰ、保健看護管理・教育 特別研究Ⅰ、
保健看護管理・教育 課題研究Ⅰ
博士後期課程：継続保健看護教育Ⅱ
研究指導教員：博士前期課程（2人）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：博士前期課程修了者（2人）
研究員受入れ：（なし）

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、危機管理委員会、情報セキュリティ委員会、
ハラスメント防止・対策委員会、紀要編集委員会、研究倫理審査委員会、学生委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

宮里智子

【研究活動】

1. 原著論文

山川和歌子, 宮里智子. (2023). 先輩看護師が日々の業務の中で感じる新卒看護師への指導の困難と対処. 沖縄県立看護大学紀要. 24, 1-14.

2. その他論文

宮城恵子, 宮里智子, 伊良波理絵, 知念久美子. (2023). 沖縄県の離島診療所における看護管理の実態— 離島診療所看護師 3名へのインタビュー調査から —. 沖縄県立看護大学紀要. 24, 15-24.

3. 著書 (なし)

4. 学会発表 (なし)

5. その他研究活動 (なし)

研究テーマ: 学生から実務者への移行プロセス
看護職者のキャリア形成支援

【学会等における活動】

- ・日本感染看護学会: 理事、編集委員会事務局、査読
- ・日本看護管理学会: 会員
- ・日本看護科学学会: 会員
- ・日本ルーラルナーシング学会: 会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会: 認定看護管理者教育課程ファーストレベル非常勤講師「組織マネジメント」
- ・沖縄県看護協会: 感染管理認定看護師教育課程非常勤講師「指導」
- ・沖縄県看護協会: 専任教員養成講習会非常勤講師「看護論」「看護論演習」
- ・沖縄県看護協会: 保健師助産師看護師実習指導者講習会非常勤講師「看護論」
- ・沖縄県看護協会: 教育委員会 (委員長)
- ・沖縄県看護協会: 認定看護管理者教育運営委員会 (委員)
- ・沖縄県看護協会: 訪問看護ステーションにおける「第三者評価作成チーム」会議 (委員長)
- ・社会医療法人仁愛会 浦添総合病院: 特定行為研修管理委員

【学内教育活動】

学部: 看護専門職論Ⅰ、看護専門職論Ⅱ、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ、生活援助・療養援助技術実習
博士前期課程: 保健看護管理実習、保健看護管理・教育特別研究Ⅰ、保健看護管理・教育課題研究、継続保健看護教育Ⅰ、看護管理・政策
博士後期課程: 継続保健看護教育Ⅱ
研究指導教員: 博士前期課程 (3人)、博士後期課程 (なし)
博士前期・後期課程修了者数: 博士前期課程修了者 (1人)
研究員受入れ: 1人

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、情報セキュリティ委員会、人事委員会、研究・研修委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、研究科教務委員会、研究科入学試験委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

栗原幸子

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 齊藤しのぶ、飛世真理子、齊藤可紗、和住淑子、林恵理子、河部房子、栗原幸子、山岸仁美、対象の健康回復を目指した看護過程展開を目的としたシミュレーション演習の学習効果 第42回日本看護科学学会学術集会 2022年12月 広島県
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・日本看護学教育学会：教育活動委員会委員
- ・日本看護科学学会の会員
- ・日本看護シミュレーションラーニング学会の会員
- ・ナイチンゲール研究学会の会員
- ・千葉看護学会の会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会：第37回沖縄県看護研究学会学術集会 査読委員
- ・沖縄県看護協会：研修「演習で学ぶ看護研究Ⅰ～Ⅳ」講師
- ・沖縄県看護協会：沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会「看護論」講師
- ・沖縄県看護協会：沖縄県専任教員養成講習会「看護論演習」講師

【学内教育活動】

学部：看護学原論、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活援助・療養援助技術実習（9月～11月）、卒業演習、看護総合実習（4人）、看護卒業論文/看護総合演習（4人）
博士前期課程：保健看護教育演習、保健看護教育実習、継続保健看護教育Ⅰ、実践ヘルスアセスメント、教育方法論
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

大学広報委員会、教務委員会、学術情報委員会、4年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 栗原幸子（研究代表者）若手研究（2019～2023）
リフレクションを取り入れた看護技術演習プログラムの構築
- 2) 齊藤しのぶ（研究代表者）基盤研究C（2019～2022）
看護実践のリアリティを追求するシミュレーション教育プログラムの開発

山川和歌子

【研究活動】

1. 原著論文

山川和歌子, 宮里智子. (2023). 先輩看護師が日々の業務の中で感じる新卒看護師への指導の困難と対処. 沖縄県立看護大学紀要. 24, 1-14.

2. その他論文 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表 (なし)

5. その他研究活動

- ・ 山川和歌子. (2022). シンセサイザーの教育実践への活用. 沖縄県立看護大学教育実践紀要, 9(1).
- ・ 研究テーマ: 日々の業務の中での新卒看護師への指導、看護継続教育の指導者

【学会等における活動】

- ・ 日本看護学教育学会: 会員
- ・ 日本看護科学学会: 会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県看護協会: 専任教員養成講習会 非常勤講師「看護論演習」
- ・ 沖縄県看護協会: 保健師助産師看護師実習指導者講習会 非常勤講師「看護論」

【学内教育活動】

学部: 看護学原論、ヘルスアセスメント、生活援助・療養援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、生活援助・療養援助技術実習(9月~11月)、卒業演習、看護統合実習(1人)、看護卒業論文(1人)

別科助産専攻: なし

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

研究指導教員: 博士前期課程(なし)、博士後期課程(なし)

博士前期・後期課程修了者数: なし

研究員受入れ: なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、学生委員会、4年次部会

【学長奨励研究】

- ・ 山川和歌子: 中規模病院の先輩看護師が日々の業務の中で感じる新卒看護師への指導の困難と対処

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

山田ゆみこ

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会の会員
- ・日本看護研究学会の会員

【社会活動】

- ・新型コロナウイルス感染症支援：沖縄県庁（2日）

【学内教育活動】

学部：看護学原論
療養援助・生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
療養援助・生活援助技術実習（10月～11月）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

4年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

仲本勉

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) Kenichi Yamaguchi, Tsutomu Nakamoto, Norihisa Saeki. Social Capital and Self-efficacy of Nursing Students: Proposing Sociological Contribution to Interdisciplinary Research 第95回日本社会学会大会 2022年11月 大阪府
5. その他研究活動
 - 1) 本学教員（佐伯宣久教授、山口賢一准教授）との共同研究：看護大学生の自己効力感に関する継続調査研究
 - 2) 国際医療福祉大学大学院教員（白澤政和教授）との共同研究：島嶼における精神障害者の在宅療養のためのコミュニティアケアについて

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会、日本精神保健看護学会、日本病院・地域精神医学会、日本社会精神医学会、日本医学看護教育学会の会員

【社会活動】

- ・NPO法人ワークサポートひかり：外部委員
- ・新型コロナウイルス感染症支援：南部保健所（3日）、県の在宅療養者の健康観察支援（1日）
- ・精神保健看護研究会：事務局

【学内教育活動】

学部：精神保健看護Ⅰ・Ⅱ、精神保健看護実習Ⅰ（9月～10月）、精神保健看護演習（11月～2月）、精神保健看護実習Ⅱ（11月～2月）、在宅保健看護実習（10月）、看護統合実習（2人）、看護卒業研究（2人）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、2年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

牧内忍

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文（なし）

3. 著書（なし）

4. 学会発表

1) 知念真樹、牧内忍、岡崎実子、宮里澄子、池本温美 保健師が小規模町村離島で長期に仕事を継続できた理由 第42回日本看護科学学会学術集会 2022年12月 広島県

5. その他研究活動

・執筆中の論文「沖縄県男性タクシードライバーにおける生活習慣病の罹患可能性の認識」

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生看護学会、日本公衆衛生学会、日本産業衛生学会、日本健康教育学会、日本健康学会、日本看護科学学会の会員

【社会活動】

- ・沖縄市役所介護認定審査会 委員
- ・ヘルシーシティーおきなわ 委員
- ・ボランティア活動：トックリキワタ祭りでの救護班
- ・ボランティア活動：与儀地区防犯パトロール
- ・ボランティア活動：那覇市健康フェア
- ・新型コロナウイルス感染症支援：南部中部保健所、那覇市保健所

【学内教育活動】

学部：身体活動論、身体活動論演習、早期体験実習、ストレスマネジメントと健康教育、地域保健看護Ⅰ～Ⅲ、地域保健看護演習、地域保健看護実習Ⅰ（5月～6月）地域保健看護実習Ⅱ（9月～10月）、看護統合実習（2人）、看護卒業論文（2人）

博士前期課程：実践島嶼保健看護特論Ⅵ、実践島嶼保健看護特論Ⅴ、地域・精神保健看護特論Ⅰ、地域保健看護演習、ヘルスプロモーション・健康教育Ⅰ、

研究指導教員：博士前期課程（2人）

博士前期・後期課程修了者数：博士前期課程修了者（0人）

研究員受入れ：1人

【学内委員会活動等】

衛生委員会、地域連携協働センター運営委員会、学生委員会、4年次部会、

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

1) 共同研究者 基盤研究C（2020～2024）小離島勤務保健師へのICTを活用した継続教育プログラムの開発（研究代表者：知念真樹）

2) 共同研究者 基盤研究B（2022～2026）「エッセンシャルワーカーとしての看護師の継続する危機への適応力教育パッケージ開発」（研究代表者：松浦賢長）

知念真樹

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 知念真樹、牧内忍、岡崎実子、宮里澄子、池本温美 保健師が小規模町村離島で長期に仕事を継続できた理由 第42回日本看護科学学会学術集会 2022年12月 広島県
5. その他研究活動
琉球大学医学部保健学科教員（當山裕子）との共同研究：沖縄県における新型コロナウイルス感染症患者急増時の保健所の受援体制の状況と課題

【学会等における活動】

- ・ 日本国際看護学会評議委員 広報委員
- ・ 日本看護学会学術集会抄録選考委員
- ・ 日本公衆衛生学会の会員
- ・ 日本地域保健看護学会の会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会の会員
- ・ 日本健康学会の会員
- ・ 日本国際保健医療学会の会員
- ・ 日本看護科学学会の会員

【社会活動】

- ・ 令和4年度沖縄県保健師等人材確保推進委員会委員
- ・ 沖縄県新任保健師研修会講師
- ・ 沖縄キリスト教短期大学：非常勤講師
- ・ JOCA 沖縄：非常勤講師
- ・ ボランティア活動：久米島マラソンでの救急支援
- ・ 知念真樹 沖縄でグローバルに国際保健看護を学ぼう！ 目で見ると読む WHO 2023(1) No. 83 巻 冬号 16-17 ページ 2023年1月
- ・ GRNEN/World Tour, Episode5: Okinawa, <https://www.grnen.org/grnenevents>

【学内教育活動】

学部：看護専門職論Ⅰ、保健医療情報演習、保健医療福祉制度、
ストレスマネジメントと健康教育、島嶼・国際保健看護実習、
地域保健看護Ⅰ～Ⅲ、国際保健看護、地域保健看護演習、
地域保健看護実習（9月～10月）、地域保健看護実習Ⅰ（6月～7月）、
看護統合実習（4人）、看護卒業研究（4人）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：地域保健看護演習、地域・精神保健看護特別研究Ⅰ、
実践島嶼保健看護特論Ⅳ、実践島嶼保健看護特論Ⅶ、
実践島嶼保健看護演習Ⅰ、
博士後期課程：なし
研究指導教員：なし
博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

沖縄島嶼保健看護協働センター、国際交流室運営委員会、教務委員会、2年次部会、

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 知念真樹研究代表者) 基盤研究 C (2020~2024) 小離島勤務保健師への ICT を活用した継続教育プログラムの開発
- 2) 神里みどり (研究代表者) 基盤研究 C (2022~2024)
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築

岡崎実子

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文

- 1) 岡崎実子. (2023). 離島における保健師の保健活動の特徴に関する文献検討. 沖縄県立看護大学紀要. 24, 73-80.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 松本憲子、中村千穂子、高橋秀治、河野朋美、岡崎実子、高本佳代子 公衆衛生看護学実習で学生が捉えた保健師の役割 日本地域看護学会第25回学術集会 2022年8月 富山県
- 2) 知念真樹、牧内忍、岡崎実子、宮里澄子、池本温美 保健師が小規模町村離島で長期に仕事を継続できた理由 第42回日本看護科学学会学術集会 2022年12月 広島県
- 3) 大野理恵、岡崎実子、中村千穂子、川村道子、壹岐さより、田中美智子 社会人基礎力育成を目指した学生支援—アサーションやヨガ講座を受講した学生の様相— 第42回日本看護科学学科学術集会 2022年12月 広島県

5. その他研究活動

- 1) 令和3年度および令和4年度実習専門部会合同企画；赤嶺唯、伊良波賢、岡崎実子、下中壽美、田場由紀、知念真樹、仲本勉、光来出由利子、宮城裕子、山川和歌子、山本真充. 臨地実習指導者と看護教員による実習指導力の向上をめざす協働の試み—令和4年度沖縄県立看護大学実習連絡調整会議報告書より—. 沖縄県立看護大学教育実践紀要, 9(1).
- 2) 離島における保健師の保健活動の展開方略の明確化について

【学会等における活動】

- ・ 日本看護協会の会員
- ・ 日本地域保健看護学会の会員
- ・ 日本公衆衛生看護学会の会員
- ・ 日本健康学会の会員
- ・ 日本看護科学学会の会員
- ・ 日本保健師活動研究会の会員
- ・ 日本アルコール関連問題学会の会員

【社会活動】

- ・ ボランティア活動：なは健康フェアでの健康教育ブース設置

【学内教育活動】

学部：保健医療情報演習、ヘルスアセスメント、保健医療福祉制度、ストレスマネジメントと健康教育、地域保健看護Ⅰ～Ⅲ、地域保健看護演習、地域保健看護実習（9月～10月）、地域保健看護実習Ⅰ（6月～7月）、看護統合実習（2人）、看護卒業研究（2人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：実践島嶼保健看護特論Ⅶ

博士後期課程：なし

研究指導教員：なし

博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

研究・研修委員会、実習専門部会、4年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

長濱直樹

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - ・ 日本看護科学学会学術集会参加。その後国立循環器病研究センターの視察。
 - ・ FD研修で学生の学習目標達成の意欲を向上させる研究に関する着想を得た。
 - ・ Aging Clock と生物学的年齢に関する文献検討

【学会等における活動】

- ・ 日本看護協会の会員
- ・ 日本看護科学学会の会員

【社会活動】

- ・ ボランティア活動：なは健康フェアでの健康教育ブース設置

【学内教育活動】

学部：地域保健看護Ⅰ、保健医療情報演習、ストレスマネジメントと健康教育、
地域保健看護Ⅱ、地域保健看護Ⅲ、保健医療福祉制度、地域保健看護演習、
地域保健看護実習Ⅰ、地域保健看護実習、看護統合実習、看護卒業研究

【学内委員会活動等】

情報システム専門部会、地域協働連携センター運営委員、実習専門部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

池本温美

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 知念真樹、牧内忍、岡崎実子、宮里澄子、池本温美 保健師が小規模町村離島で長期に仕事を継続できた理由 第42回日本看護科学学科学術集会 2022年12月 広島県
5. その他研究活動
執筆中「沖縄県におけるスクーバダイビングインストラクターの健康行動の実態」

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会の会員
- ・日本産業衛生学会の会員

【社会活動】

- ・ケアリングアイランド・大学コンソーシアム：学習支援ツール作成
- ・ボランティア活動：なは健康フェアでの健康教育ブース設置
- ・新型コロナ感染症支援：那覇市保健所・中部保健所における継続的支援

【学内教育活動】

学部 島嶼・国際保健看護実習（11月）、地域保健看護演習（4～5月）、地域保健看護実習（8月～10月）、地域保健看護実習Ⅰ（5～6月）、看護統合実習（4人）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

地域連携協働センター運営委員会、4年次部会、学術情報委員会

【学長奨励研究】

池本温美、新型コロナウイルス感染症による保健所支援を通しての看護学生の学び

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

賀数いづみ

【研究活動】

1. 原著論文(なし)
2. その他論文(なし)
3. 著書(なし)
4. 学会発表(なし)
5. その他研究活動
共同研究 学長奨励研究(知念久美子)「島嶼地域の不妊治療の実態」令和4年度研究活動報告会発表 令和4年9月9日～9月16日(オンデマンド配信)
「10代母親の支援必要度測定尺度に関する実用可能性の検証」研究活動中

【学会等における活動】

- ・日本助産学会学術集会 査読委員
- ・日本助産学会会員
- ・日本看護科学学会会員
- ・日本母性衛生学会会員
- ・日本思春期学会会員
- ・日本公衆衛生学会会員

【社会活動】

- ・沖縄県助産師出向支援導入事業協議会委員
- ・ケアリングアイランド・大学コンソーシアム学習支援ツール作成支援
- ・令和4年度要保護児童対策調整機関専門職研修(児童虐待対応職員法定義務研修事業)講師「母子保健の役割と保健機関の連携」 主催：沖縄県、共催：NPO法人おきなわCAPセンター令和4年9月27日(Web講義)

【学内教育活動】

学部：助産実践論、助産診断・技術学、早期体験実習(5日)、周産期保健看護Ⅱ、ウイメンズヘルスサイエンス、周産期保健看護演習(11～2月)、生涯人間発達論(10月)、卒業演習、看護統合実習、看護卒業論文・看護総合演習

博士前期課程：母性・小児保健看護特論Ⅰ、実践島嶼保健看護Ⅴ

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程 なし

博士前期・後期課程修了者数：博士後期課程修了者なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、情報セキュリティ委員会、人事委員会、研究・不正防止計画推進委員会、研究・研修委員会、教務委員会、別科助産専攻運営委員会、助産専攻科設置準備WG

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 賀数いづみ(研究代表者) 基盤研究C(2020～2023) 10代母親の支援必要度測定尺度に関する実用可能性の検証

井上松代

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 1. 井上松代（研究代表者）：「研究課題名：COVID-19の影響による病院・遠隔（オンライン）・学内での異なる周産期保健看護実習 II を経験した学生の学びと課題」について、全体総括を担当し、領域内の他教員4名と研究活動を実施した。前年度3月に研究計画書作成（井上・下中）および倫理審査を受け（井上）、3月末日に本計画書が承認された。当該年度（2022年度）4月～6月に本学4年次学生を対象に、①質問紙調査、②インタビュー調査を行った。井上は、①質問紙調査を担当し、②インタビュー調査については、分担研究者（當間）が学長奨励研究にて主担当として研究を推進した。

【学会等における活動】

- ・日本助産学会：会員
- ・日本乳幼児精神保健学会：会員
- ・日本看護科学学会：会員
- ・日本思春期学会：会員
- ・日本母性衛生学会：会員
- ・日本助産師会：会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会：令和4年度沖縄県専任教員養成講習会「看護論演習」講習会講師（6月13日、3時間）、内容：看護理論に共通する看護をとらえる概念枠組み 人間（対象）、環境（社会）、健康、看護（母性看護）
- ・ボランティア活動：トライ高等学院小禄キャンパス（9月29日、対象：通信制高校生6名）にて、ドメスティック・バイオレンスによる女性と子どもの健康被害に関する講義（90分）を実施

【学内教育活動】

学部：周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ、周産期保健看護演習（11月～2月）、周産期保健看護実習Ⅱ（責任者のみ）、看護統合実習（4人）、看護卒業研究（4人）、ウイメンズ・ヘルス、基礎助産学、助産診断・技術学、助産実習（8月～9月）
博士前期課程：看護倫理、母性・小児保健看護特論Ⅰ
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

研究・研修委員会、教務委員会、2年次部会、別科助産専攻運営委員会

【学長奨励研究】

當間みゆき、Covid-19の影響による病院・遠隔（オンライン）・学内での異なる周産期保健看護実習 II を経験した学生の学びと課題

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 赤嶺伊都子（研究代表者）基盤研究 C（2021～2023）IPV 被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用
- 2) 井上松代（研究代表者）基盤研究 C（2018～2023）DV 被害女性患者のスクリーニングおよび対応についての看護実践とその評価
- 3) 下中壽美（研究代表者）基盤研究 C（2020～2023）助産師の周産期メンタルヘルスケア実践能力向上のための教育支援プログラムの開発
- 4) 新城正紀（研究代表者）基盤研究 C（2020～2023）沖縄大学教員 DV 被害をスクリーニングできる IPV 被害者発見尺度の実用化の検討

知念久美子

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
 1. 宮城恵子、宮里智子、伊良波理絵、知念久美子 沖縄県の離島診療所における看護管理の実態—離島診療所看護師 3 名へのインタビュー調査から— 沖縄県立看護大学紀要 24 巻 号 15-24 ページ 2023 年 3 月
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 1. 沖縄県立看護大学教員（當間みゆき）との共同研究：Covid-19 の影響による病院・遠隔（オンライン）・学内での異なる周産期保健看護実習 II を経験した学生の学びと課題
 2. テーマ「島しょ地域における不妊治療の実態」について研究に取り組んでいる。

【学会等における活動】

- ・日本母性衛生学会 会員
- ・日本助産学会 会員
- ・文化看護学会 会員
- ・日本ルーラルナーシング学会 会員
- ・日本生殖看護学会 会員
- ・日本看護科学学会 会員

【社会活動】

- ・沖縄県立看護大学同窓会 事務局補佐

【学内教育活動】

学部：ヘルスアセスメント、ウィメンズヘルスサイエンス、周産期保健看護 I、周産期保健看護 II、周産期保健看護実習 I（10 月）、周産期保健看護演習、周産期保健看護実習 II（10 月～2 月）、看護統合実習（3 人）、看護卒業研究（3 人）、基礎助産学、助産診断・技術学、助産実習（1 人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

沖縄島嶼保健看護協働センター、国際交流室運営委員会、教務委員会（補佐）、1 年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

下中壽美

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - 1) 沖縄県立看護大学教員（井上松代、當間みゆき、赤嶺唯、知念久美子）との共同研究：Covid-19の影響による病院・遠隔（オンライン）・学内での異なる周産期保健看護実習 II を経験した学生の学びと課題
 - 2) 研究テーマ：周産期メンタルヘルスケアを実施する助産師の教育支援

【学会等における活動】

- ・日本看護科学学会会員
- ・日本助産学会会員
- ・日本母性衛生学会会員
- ・日本周産期メンタルヘルス学会会員
- ・日本乳幼児精神保健学会会員
- ・日本母性看護学会会員
- ・日本小児保健協会会員
- ・日本思春期学会会員

【社会活動】

- ・沖縄県看護協会助産師職能委員会委員
- ・沖縄周産期メンタルヘルスケア研究会副代表

【学内教育活動】

学部：助産診断・技術学、基礎助産学、周産期保健看護Ⅰ、周産期保健看護Ⅱ、助産実習（8月～9月）周産期保健看護実習Ⅰ（10月）、周産期保健看護演習（11月～2月）、周産期保健看護実習Ⅱ（11月～12月、2月）、看護統合実習（2人）、看護卒業研究（2人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、1年次部会

【学長奨励研究】

當間みゆき、Covid-19の影響による病院・遠隔（オンライン）・学内での異なる周産期保健看護実習 II を経験した学生の学びと課題

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 下中壽美（研究代表者）基盤研究C（2020～2023）助産師の周産期メンタルヘルスケア実践能力向上のための教育支援プログラムの開発
- 2) 井上松代（研究代表者）基盤研究C（2018～2023）DV被害女性患者のスクリーニングおよび対応についての看護実践とその評価

當間みゆき

【研究活動】

1. 原著論文 (なし)
2. その他論文 (なし)
3. 著書 (なし)
4. 学会発表 (なし)
5. その他研究活動
公益社団法人沖縄県看護協会：社会福祉経済委員会「沖縄県の看護職が受ける患者及び家族からの暴力」について調査研究中

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

公益社団法人 沖縄県看護協会 社会福祉委員

【学内教育活動】

学部：助産診断技術学 基礎助産学 助産実習（8月～9月） 周産期保健看護Ⅱ 周産期保健看護学Ⅰ演習（7月）周産期保健看護学Ⅰ実習（10月）周産期保健看護学Ⅱ演習・実習（11月～2月）看護統合実習（2名） 看護卒業論文（2名）

別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：なし
博士前期：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

地域連携協働センター運営委員会

【学長奨励研究】

當間みゆき、Covid-19の影響による病院・遠隔（オンライン）・学内での異なる周産期保健看護実習Ⅱを経験した学生の学びと課題

【外部資金獲得】

赤嶺唯

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文（なし）

1) 赤嶺唯, 島田友子. (2022). キネステティック・クラシック・ネオ体験学習後の更年期女性の動きの変容プロセス. 日本助産学会誌, 36(1), 147-160.

3. 著書（なし）

4. 学会発表（なし）

5. その他研究活動

沖縄県立看護大学看護学部教員（知念久美子）との共同研究：島しょ地域における不妊治療の実態

【学会等における活動】

- ・日本助産学会 会員
- ・沖縄県助産師会 会員

【社会活動】

・第111回 看護師国家試験 学習支援ツール作成（ケアリング・アイランド大学コンソーシアム）

【学内教育活動】

学部：助産実習（8月～9月）、周産期保健看護実習Ⅰ（10月）、周産期保健看護演習（11月～2月）、周産期保健看護実習Ⅱ（11月～2月）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

実習専門部会、3年次部会

【学長奨励研究】

當間みゆき、赤嶺唯、知念久美子、下中壽美、井上松代. Covid-19の影響による病院・遠隔（オンライン）・学内での異なる周産期保健看護実習Ⅱを経験した学生の学びと課題

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

上原和代

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書
W. Eklund, M. Konishi, A. Nakai, A. Shimizu, K. Uehara, N. Nakamura. (2022. 5).
Chapter 12. Asia: Neonatal Care from the Japanese Perspective as an example within SE Asia, 93-110.
主担当：Case 1: Unique cultural challenges in Okinawa islands: An NCU Nurses' passion makes a difference. (765 words)
副担当：Multi-disciplinary Team in NICU, Role of professional associations
Julia Petty, Tracey Jones, Agnes van den Hoogen, Karen Walker, Carole Kenner
(編著). Neonatal Nursing: A Global Perspective., Springer, 英国, ハードカバー/電子書籍 (全 187 ページ) .
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
日本新生児看護学会学術集会、国際交流委員会企画「世界と一緒に創る新生児看護の未来：Neonatal Nursing: A Global Perspective 執筆の経験」、シンポジスト
(2022. 11. 26)

【学会等における活動】

- ・ 日本看護教育学会会員
- ・ 日本看護科学学会会員
- ・ 日本小児看護学会員
- ・ 日本新生児看護学会会員：平成 28 年～継続中、評議員、査読委員、国際交流委員
世界の新生児看護を学ぶ抄読会、事務局、2023. 1～継続中
- ・ Council of International Neonatal Nurses : Representatives of Japan
- ・ 沖縄小児保健学会会員
- ・ 日本小児保健学会会員
- ・ 研究方法勉強会、事務局、2021. 10～継続中

【社会活動】

- ・ 沖縄キリスト教学院大学短期大学：保育科、非常勤講師、こどもの保健、科目責任者
- ・ 沖縄南部療育医療センター：研究支援、非常勤講師
- ・ 沖縄県教育委員会：沖縄県立特別支援学校における医療的ケア運営委員会委員
- ・ 新型コロナ感染症支援：南部保健所（3 日）

【学内教育活動】

学部：生涯人間発達論、早期体験実習（5 日）、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱ
小児保健看護実習Ⅰ（9 月～11 月）、小児保健看護演習（11 月～2 月）、小児保健看護実習Ⅱ（11 月～2 月）、看護統合実習（4 人）、看護卒業論文（4 人）
博士前期課程：母性・小児保健看護特論Ⅰ、小児保健看護演習、小児保健看護実習
実践島嶼保健看護特論Ⅳ、実践島嶼保健看護演習Ⅱ、質的研究方法
生涯人間発達論（調整）

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（2人）、博士後期課程（0人）

博士前期・後期課程修了者数：博士前期課程修了者（1人）

研究員受入れ：0人

【学内委員会活動等】

紀要編集委員会、研究倫理審査委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、1年次部会
研究科教務委員会、研究科入学試験委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

上原和代（研究代表者）若手研究（2018～2023）日本語版退院準備性尺度親用の実用化
と海外への発信 ※延長

鈴木 ミナ子

【研究活動】

1. 原著論文

1) Minako Suzuki, Kumiko Tsujino, Noriko Toyama, Manami Uehara, Jun Kobayashi. (2023). Mothers Maintaining Stable Parenting after Participating in Parent Training: A Qualitative Study. Japanese Journal of Health and Human Ecology. 89 (6). (掲載予定)

2. その他論文 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表 (なし)

5. その他研究活動

- 1) 鈴木 ミナ子. (2022). シンセサイザーの教育実践への活用. 沖縄県立看護大学教育実践紀要, 9(1).
- 2) 鈴木 ミナ子, 永島すえみ, 上原和代. 発達障害児の母親が障害の知識をペアレントトレーニングスキルに活用するプロセス. 小児保健研究への投稿準備中.

【学会等における活動】

【社会活動】

- ・ 沖縄県那覇特別支援学校：学校評議委員
- ・ 南部療育センター：職員研修会講師
- ・ 一般社団法人 Support Parenting Lab.：理事
- ・ 発達支援事業所 りとりいと：職員研修講師
- ・ 社会福祉法人 幸福義会 志真志まごころ保育園：職員研修会講師
- ・ 新型コロナウイルス感染症支援：南部中部保健所（3日）、那覇市保健所（半日）

【学内教育活動】

学部：生活援助・療養援助技術Ⅰ、ヘルスアセスメント、小児保健看護Ⅰ、小児保健看護実習Ⅰ、小児保健看護Ⅱ、小児保健看護演習、小児保健看護実習Ⅱ、在宅保健看護実習、看護統合実習（2人）、看護卒業研究（2人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

教務委員会、地域連携協働センター運営委員会、3年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

神里亜実

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - 1) 神里亜実. (2022). シンセサイザー 21(1).

【学会等における活動】

なし

【社会活動】

- ・第111回 看護師国家試験 学習支援ツール作成 ケアリング・アイランド大学コンソーシアム
- ・沖縄小児看護実践検討会、事務局
- ・ボランティア活動：産後ケア施設 zeroplace 学生ボランティア引率
- ・新型コロナ感染症支援：沖縄県 自宅療養者の健康観察支援

【学内教育活動】

学部：

- 小児保健看護Ⅰ、小児保健看護Ⅱ、小児保健看護演習（11月～2月）
- 小児保健看護実習Ⅰ（9月～11月）、小児看護実習Ⅱ（11月～3月）
- 生活援助・療養援助技術Ⅰ、ヘルスアセスメント、看護卒業論文、看護統合実習
- 看護専門職論Ⅱ（ゲストスピーカー）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

2年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

山本敬子

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他論文
3. 著書
4. 学会発表
5. その他研究活動

【学会等における活動】

【社会活動】

【学内教育活動】

【学内委員会活動等】

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

謝花小百合

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) 謝花小百合、大城真理子、具志堅翔子、神里みどり (2022). シミュレーションを活用した終末期がん患者の臨終後の家族ケアにおける学生の学び 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 10, 81-89.
- 2) Mariko Oshiro, Midori Kamizato, Sayuri Jahana. (2022). Factors related to help-seeking for cancer medical care among people living in rural areas : a scoping review. BMC Health Services Research, 22(836), 1-17.
- 3) 具志堅翔子, 謝花小百合, 大城真理子. (2022). クリティカルケア看護科目における学内実習でのアセスメントに対する学生が抱く困難感と協同作業の認識の実態調査. : 沖縄県立看護大学紀要. 24, 89-96.

2. その他論文 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表 (なし)

5. その他研究活動

- 1) 琉球大学工学部教員 (比嘉広樹教授)、琉球大学医学部教員 (大内元特命講師)、沖縄県立看護大学教員 (謝花小百合教授、大城真理子准教授、源河朝治助教、永野佳世研究員) との共同研究 : 看護大学生の効果的な心肺蘇生に向けた Virtual Reality (仮想現実) システムの活用

【学会等における活動】

- ・ 日本がん看護学会 : 会員
- ・ 日本緩和医療学会 : 会員
- ・ 日本家族看護学会 : 会員
- ・ 文化看護学会 : 会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県看護協会 : 保健師助産師看護師実習指導者講習会非常勤講師
- ・ 新型コロナウイルス感染症支援 : 沖縄県庁への支援の応援 (1日), 南部保健所 (1日)

【学内教育活動】

学部 : クリティカル緩和ケア論、早期体験実習 (5日)、看護統合実習 (5人)
博士前期課程 : 実践がん看護特論Ⅰ, 実践がん看護特論Ⅱ, 実践がん看護特論Ⅲ, 実践がん看護演習Ⅰ, 実践がん看護演習Ⅱ, 実践がん看護実習Ⅰ, 実践ヘルスセスメント, 成人保健看護特論Ⅰ, 成人保健看護演習, 実践島嶼保健看護特論Ⅴ
博士後期課程 : 新領域保健看護特論Ⅱ
研究指導教員 : 博士前期課程 (3人)、博士後期課程 (0人)
博士前期・後期課程修了者数 : 博士前期課程修了者 (1人)
研究員受入れ : 0人

【学内委員会活動等】

3年次部会、研究科教務委員会、研究科入学試験委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 神里みどり（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築
- 2) 謝花小百合（研究代表者）基盤研究 C（2015～2022）沖縄独自の死の文化を基盤にした看取り教育プログラムの開発

赤嶺伊都子

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - 1) 沖縄県立看護大学教員（井上松代）、沖縄大学健康栄養学部教員（新城正紀）との共同研究：IPV被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用
 - 2) 沖縄県立看護大学教員（井上松代）との共同研究：DV被害女性患者のスクリーニングおよび対応についての看護実践とその評価
 - 3) 沖縄大学健康栄養学部教員（新城正紀）との共同研究：DV被害をスクリーニングできるIPV被害者発見尺度の実用化の検討

【学会等における活動】

- ・日本看護研究学会九州・沖縄地方会：役員
- ・日本看護科学学会の会員
- ・日本看護研究学会の会員
- ・日本循環器病予防学会の会員
- ・日本循環器学会の会員
- ・日本公衆衛生学会の会員

【社会活動】

- ・令和4年度沖縄県専任教員養成講習会 講師
- ・日本看護研究学会九州・沖縄地方会 役員
- ・新型コロナ感染症支援：県の自宅療養者の健康観察支援（1日）

【学内教育活動】

学部：成人保健看護Ⅰ、成人保健看護Ⅱ、成人保健看護演習、成人保健看護実習Ⅰ（10月～11月）、成人保健看護実習Ⅱ（11月～2月）、ヘルスアセスメント、卒業演習、看護統合実習（4人）、看護卒業研究（4人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：修士論文副査（1件）

【学内委員会活動等】

研究倫理審査委員会、教務委員会、学生委員会、3年次部会、

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 赤嶺伊都子（研究代表者）基盤研究C（2021～2023）IPV被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用
- 2) 井上松代（研究代表者）赤嶺伊都子（研究分担者）基盤研究C（2018～2023）DV被害女性患者のスクリーニングおよび対応についての看護実践とその評価
- 3) 新城正紀（研究代表者）赤嶺伊都子（研究分担者）基盤研究C（2020～2023）DV被害をスクリーニングできるIPV被害者発見尺度の実用化の検討

大城真理子

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) Mariko Oshiro, Midori Kamizato, Sayuri Jahana. (2022). : Factors related to help-seeking for cancer medical care among people living in rural areas : a scoping review. BMC Health Services Research, 22(836), 1-17.
- 2) 具志堅翔子, 謝花小百合, 大城真理子. (2022). クリティカルケア看護科目における学内実習でのアセスメントに対する学生が抱く困難感と協同作業の認識の実態調査. : 沖縄県立看護大学紀要. 24, 89-96.
- 3) 謝花小百合, 大城真理子, 具志堅翔子, 神里みどり (2022). シミュレーションを活用した終末期がん患者の臨終後の家族ケアにおける学生の学び 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 10, 81-89.

2. その他論文 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表

- 1) Mariko Oshiro, Midori Kamizato. The environment of help-seeking for breast cancer care among small-islander women: A pilot study. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023年3月 オンライン
- 2) 天野薫, 加澤佳奈, 丹野寛大, 荻原弘幸, 高橋聡明, 細野知子, 椿美智博, 橋本友美, 林文子, 大城真理子, 仲上豪二郎, 吉永尚紀, 菅野恵美, 麦田裕子, 友滝愛, 横田慎一郎, 寺本千恵, 木下真吾, 川畑 貴寛 「集まれ Young researchers! 研究活動の共有・交流をはかろう」 教育への活用に向けた看工連携の取り組み 第42回日本看護科学学会学術集会交流集会 2022年12月 広島
- 3) Mariko Oshiro, Midori Kamizato, Takako Higaonna Issues Pertaining to Breast Cancer Care in Remote Islands: From the Perspective of the Members of Breast Cancer Patient Groups The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (7th WANS) 2022年10月 オンライン

5. その他研究活動

- 1) 琉球大学工学部教員 (比嘉広樹教授)、琉球大学医学部教員 (大内元特命講師)、沖縄県立看護大学教員 (謝花小百合教授、源河朝治助教、永野佳世研究員) との共同研究: 看護大学生の効果的な心肺蘇生に向けた Virtual Reality (仮想現実) システムの活用
- 2) 純真学園大学看護学部教員 (村井孝子准教授)、九州大学大学院医学研究院保健学部門 (松永由里子講師)、琉球大学医学部保健学科教員 (豊里竹彦教授) との共同研究: 若手看護研究者のワーク・ライフ・バランスとキャリア形成
- 3) 大城真理子 (研究代表者) 若手研究 (2023~2025) 実装科学に基づいた乳がんの受診遅延ハイリスク者を特定するスクリーニング指標の作成

【学会等における活動】

- ・ 日本看護科学学会 : 若手の会エリアコーディネーター
- ・ 日本看護科学学会 : パネリスト WANS seminar-Early career researchers' experiences under COVID-19 pandemics: Focusing on research methodology-2022年8月9日
- ・ 日本看護科学学会 : 若手研究者交流会 企画・運営 2022年12月27日
- ・ 日本看護科学学会 : 異文化看護データベース執筆 (ハンガリー)

https://www.jans.or.jp/modules/committee/index.php?content_id=35

- ・ 一般社団法人日本医学会連合会：社会部会 若手リトリート実行委員会委員（日本健康学会）
- ・ 日本看護科学学会：会員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会：会員
- ・ 日本健康学会：会員
- ・ 日本がん看護学会：会員

【社会活動】

- ・ 沖縄県医師会：治験審査委員
- ・ 医療法人那覇西：倫理審査委員
- ・ 沖縄県立看護大学同窓会：理事
- ・ 沖縄県看護協会：講義（看護研究（入門編）看護現場から見出す研究課題）（1日）
- ・ 沖縄県看護協会：演習で学ぶ看護研究Ⅰ（4日）
- ・ 国立療養所宮古南静園：研究講師（3日）
- ・ 乳がん公開講座 IN 石垣 NPO 乳がん患者会ぴんく・ぱんさあとの共催 2023年1月29日
- ・ ボランティア活動：Alumni Hungary volunteer
- ・ 新型コロナ感染症支援：那覇市保健所（半日）
- ・ たびんちゅサークル：心肺蘇生法のレクチャー
- ・ アジア保健医療研究会副顧問

【学内教育活動】

学部：ヘルスアセスメント、クリティカル緩和ケア論、クリティカルケア看護演習（5月～7月）、クリティカルケア看護実習（5月～7月）、成人保健看護実習Ⅰ（5日）、看護統合実習（3人）、看護卒業研究（3人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：実践がん看護特論Ⅳ、実践がん看護演習Ⅱ

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

大学広報委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、国際交流室運営委員会、3年次部会研究研修委員会 FD 研修：講師（話題提供）「国際共同研究に向けたコロナ禍における取り組み」2023年2月24日

台北医学大学研修：引率 2023年3月12日～2023年3月25日

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 大城真理子（研究代表者）若手研究（2020～2022）
離島に特化した乳がん患者の受診遅延者の特徴と看護援助の方略
- 2) 神里みどり（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築
- 3) 謝花小百合（研究代表者）基盤研究 C（2015～2022）
沖縄独自の死の文化を基盤にした看取り教育プログラムの開発

宮城裕子

【研究活動】

1. 原著論文
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表
5. その他研究活動

【学会等における活動】

日本看護科学学会会員、日本看護研究学会会員

【社会活動】

新型コロナウイルス感染症支援：南部中部保健所（3日）、那覇市保健所（2日）

【学内教育活動】

学部：成人保健看護Ⅱ、クリティカル緩和ケア看護演習（6月～7月）、クリティカル緩和ケア看護実習（6月～7月）、成人保健看護実習Ⅰ（10月）、成人保健看護演習（11月～2月）、成人保健看護実習（11月～2月）、看護統合実習（2人）、看護卒業研究（2人）

別科助産専攻：

博士前期課程：

博士後期課程：

研究指導教員：

博士前期・後期課程修了者数：

研究員受入れ：

【学内委員会活動等】

実習専門部会、3年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

宮城裕子（研究代表者）基盤研究C（2021～2023）孤立型離島に居住する糖尿病患者の心理的自己管理促進要因の探求的研究

源河朝治

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) 源河朝治, 神里みどり. (2022). 放射線照射後1年以上が経過した頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と社会的困難との関連. 日本緩和医療学会誌, 17(3), 87-96.

2. その他論文 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表

- 1) 源河朝治, 神里みどり 頭頸部がんサバイバーが生活体験から見出した晩期有害事象への対処行動 第37回日本がん看護学会学術集会 2023年2月 神奈川県

5. その他研究活動

琉球大学工学部教員(比嘉広樹教授)との共同研究: 看護大学生の効果的な心肺蘇生に向けたVirtual Reality(仮想現実)システムの活用

主な研究テーマは、放射線治療を受けた頭頸部がん患者への看護支援である。現在は、放射線治療後の晩期有害事象アセスメントシートの作成に必要な文献検討を実施している(外部資金獲得の項目を参照)。

【学会等における活動】

- ・日本がん看護学会の会員
- ・日本看護科学学会の会員
- ・日本緩和医療学会の会員

【社会活動】

- ・沖縄県立看護大学同窓会 理事
- ・ボランティア活動: トックリキワタ祭りでの救護班
- ・ボランティア活動: RDD2023 in OKINAWA(世界希少・難治性疾患の日イベント)運営
- ・新型コロナウイルス感染症支援: 那覇市保健所(1日)、県の自宅療養者の健康観察支援(1日)

【学内教育活動】

学部: クリティカル・緩和ケア論、クリティカル・緩和ケア演習(5月~7月)、クリティカル・緩和ケア実習(5月~7月)、在宅保健看護実習(9月)、成人保健看護実習I(10月)、成人保健看護演習(11月~2月)、成人保健看護実習II(11月、2月)、看護統合実習(1人)、看護卒業研究(1人)

別科助産専攻: なし

博士前期課程: なし

博士後期課程: なし

研究指導教員: 博士前期課程(なし)、博士後期課程(なし)

博士前期・後期課程修了者数: なし

研究員受入れ: なし

【学内委員会活動等】

2年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 源河朝治（研究代表者）若手研究（2022～2024）
外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発
- 2) 謝花小百合（研究代表者）基盤研究C（2015～2022）
沖縄独自の死の文化を基盤にした看取り教育プログラムの開発

具志堅翔子

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文
 - 1) 具志堅翔子, 謝花小百合, 大城真理子. (2023). クリティカルケア看護科目における学内実習でのアセスメントに対する学生が抱く困難感と協同作業の認識の実態調査. 沖縄県立看護大学紀要, 24, 89-96.
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・日本感染看護学会の会員

【社会活動】

- ・新型コロナ感染症支援：南部保健所（2日）、沖縄県の自宅療養者の健康観察支援（1日）
- ・乳がん公開講座 IN 石垣（主催 NPO 乳がん患者会 ぴんく・ぱんさあ）運営補助：1日

【学内教育活動】

学部：ヘルスアセスメント(4～5月)、クリティカル・緩和ケア演習(5月～6月)、クリティカル・緩和ケア実習(5月～6月)、成人保健看護実習Ⅰ(10月)、成人保健看護演習(11月～2月)、成人保健看護実習Ⅱ(11月～2月)

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

教務委員会、2年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

田場由紀

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) 山口初代, 大湾明美, 田場由紀, 砂川ゆかり. (2023). 要介護高齢者の就労支援の事例にみる地域ケアへの貢献—対象の捉え方とケア方法から—, 沖縄県立看護大学紀要, 24.
- 2) 座嘉比照子, 大湾明美, 田場由紀. (2022). 統合失調症の子をもつ高齢母親の民間信仰の体験—地域文化に根ざした地域看護活動の示唆を得るために—, 文化看護学会誌, 14(1), 31-38.

2. その他論文 (なし)

3. 著書

- 1) 正木治恵, 真田弘美編, 看護学テキスト NiCE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることとは改定第4版, 田場由紀, 第X章 3 高齢者の地域づくりへの参画, 366-369.

4. 学会発表

- 1) 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2023). 人と人とのつながりが深い小離島の介護力向上をめざした協働の課題, 第15回文化看護学会学術集会, 千葉市, 2023年3月.
- 2) 鈴木美恵, 田場由紀, 砂川ゆかり, 山口初代, 光来出由利子. (2023). A島における認知症初期集中支援活動に継承される地域文化, 第15回文化看護学会学術集会, 千葉市, 2023年3月.
- 3) 田場由紀, 大湾明美, 砂川ゆかり, 山口初代. (2022). 介護サービスに参入する小離島住民が感じる障壁, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会, WEB開催, 2022年9月.
- 4) 仲原瑠美, 山口初代, 田場由紀, 大湾明美. (2022). 島の生活文化と感染対策の対立—地域によるセルフケアの評価—, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会, WEB開催, 2022年9月.
- 5) 鈴木美恵, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2022). 地元出身看護助手が意図する島外出身看護師へのサポート, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会, WEB開催, 2022年9月.
- 6) 東嵩西寿枝, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2022). 急性期病院における要介護高齢者の退院支援 本人と家族の退院時意向に焦点をあてて, 日本老年看護学会第27回学術集会, WEB開催, 2022年6月.
- 7) 山口初代, 大湾明美, 田場由紀, 砂川ゆかり. (2022). 要介護高齢者の介護予防活動を就労につなげる支援 (第2報) 介護予防活動の場の支援の特徴に焦点をあてて, 日本老年看護学会第27回学術集会, WEB開催, 2022年6月.
- 8) 砂川ゆかり, 田場由紀, 山口初代, 光来出由利子, 大湾明美. (2022). 要介護高齢者の社会貢献を推進する看護実践に大切なもの “接面” の概念を活用して, 日本老年看護学会第27回学術集会, WEB開催, 2022年6月.

5. その他研究活動 (なし)

【学会等における活動】

- ・ 日本健康学会会員
- ・ 日本老年看護学会会員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会会員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会査読委員
- ・ 文化看護学会会員

【社会活動】

- ・ 沖縄高齢者ケア研究会役員
- ・ 沖縄市介護保険認定審査会審査委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合介護保険事業計画策定委員会委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合地域支援事業運営協議会委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合地域密着型サービス運営委員会委員
- ・ 沖縄県特別養護老人ホーム整備法人審査委員会委員
- ・ 沖縄県看護協会保健師助産師看護師実習指導者講習会非常勤講師
- ・ 沖縄県看護協会専任教員養成講習会非常勤講師
- ・ 新型コロナウイルス感染症支援：沖縄県社会福祉施設等への支援の応援（8月15～19日）、宮古保健所積極的疫学調査対応への応援（8月22～24日）

【学内教育活動】

学部：早期体験実習（5日）、生涯人間発達論、ヘルスアセスメント、老年保健看護Ⅰ、老年保健看護実習Ⅰ（4月～5月）、老年保健看護Ⅱ、保健医療福祉制度、看護大学ゼミナールⅢ、老年保健看護演習、老年保健看護実習Ⅱ（6月～7月）、在宅保健看護実習（10月）、看護卒業演習、看護統合実習（4名）、看護卒業論文（4名）

博士前期課程：実践島嶼保健看護特論Ⅶ、地域文化看護論、老年保健看護演習、老年保健看護実習

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（2名）、博士後期課程（2名）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

教務委員会、実習専門部会、4年次部会、研究科入学試験委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 田場由紀（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援
- 2) 田場由紀（研究代表者）基盤研究 C（2019～2023）小離島の「互助」を活かした高齢者ケアの創出を推進する看護実践モデルの提案
- 3) 大湾明美（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造
- 4) 野口美和子（研究代表者）基盤研究 C（2019～2023）島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策—島での子育て文化に学ぶ—
- 5) 比嘉憲枝（研究代表者）基盤研究 C（2019～2023）親子分離が青年期の発達課題である自己概念の形成に及ぼす影響
- 6) 大湾明美（研究代表者）基盤研究 C（2016～2022）地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価
- 7) 佐久川政吉（研究代表者）基盤研究 C（2016～2022）「オオキナ和」プロジェクトによる相互扶助を活かした地域包括ケアシステム開発

山口初代

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文

- 1) 山口初代, 大湾明美, 田場由紀, 砂川ゆかり. (2023). 要介護高齢者の就労支援の事例にみる地域ケアへの貢献—対象の捉え方とケア方法から—, 沖縄県立看護大学紀要, 24, 49-59.
- 2) 大川嶺子, 砂川ゆかり, 山口初代, 上里さとみ. (2023). 精神科巡回診療に携わる看護師による島で暮らし続けるためのセルフケア支援, 沖縄県立看護大学紀要, 24, 37-48.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 山口初代, 大湾明美, 田場由紀, 砂川ゆかり. 要援護高齢者の介護予防活動を就労につなげる支援（第2報） 介護予防活動の場の支援の特徴に焦点をあてて, 日本老年看護学会第27回学術集会 2022年6月 WEB
- 2) 東嵩西寿枝, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. 急性期病院における要介護高齢者の退院支援 本人と家族の退院時意向に焦点をあてて, 日本老年看護学会第27回学術集会 2022年6月 WEB
- 3) 砂川ゆかり, 田場由紀, 山口初代, 光来出由利子, 大湾明美. 要介護高齢者の社会貢献を推進する看護実践に大切なもの “接面” の概念を活用して, 日本老年看護学会第27回学術集会 2022年6月 WEB
- 4) 鈴木美恵, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. 地元出身看護助手が意図する島外出身看護師へのサポート, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会 2022年9月 WEB
- 5) 仲原瑠美, 山口初代, 田場由紀, 大湾明美. 島の生活文化と感染対策の対立—地域によるセルフケアの評価—, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会 2022年9月 WEB
- 6) 田場由紀, 大湾明美, 砂川ゆかり, 山口初代. 介護サービスに参入する小離島住民が感じる障壁, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会 2022年9月 WEB
- 7) 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. 人と人とのつながりが深い小離島の介護力向上をめざした協働の課題, 第15回文化看護学会学術集会 2023年3月 千葉県
- 8) 鈴木美恵, 田場由紀, 砂川ゆかり, 山口初代, 光来出由利子. A島における認知症初期集中支援活動に継承される地域文化, 第15回文化看護学会学術集会 2023年3月 千葉県

5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・日本老年看護学会の会員
- ・日本ルーラルナーシング学会の会員
- ・文化看護学会の会員
- ・日本健康学会の会員
- ・日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会：査読

【社会活動】

- ・沖縄県立看護大学同窓会：役員
- ・沖縄県看護協会：保健師助産師看護師実習指導者講習会非常勤講師「看護論」
- ・看護小規模多機能型居宅介護末吉・グループホーム末吉：運営推進会議委員

- ・末吉老人福祉センター：運営委員会委員
- ・那覇市民生委員・児童委員
- ・ボランティア活動：トックリキワタ祭りでの救護班
- ・ボランティア活動：与儀地区防犯パトロール
- ・ボランティア活動：那覇市健康フェア
- ・新型コロナ感染症支援：県の自宅療養者の健康観察支援（2日）

【学内教育活動】

学部：老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習（5～7月）、老年保健看護実習Ⅰ（4～5月）、老年保健看護実習Ⅱ（5～7月）、在宅保健看護実習（10月）、看護大学ゼミナールⅡ、看護統合実習（4人）、看護卒業研究（4人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

入学試験委員会、地域連携協働センター運営委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、2年次部会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

山口初代、要援護高齢者の就労を支援する介護予防活動 就労する意欲を見出すアセスメントの視点

【外部資金獲得】

- 1) 田場由紀（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援
- 2) 田場由紀（研究代表者）基盤研究C（2019～2023）小離島の「互助」を活かした高齢者ケアの創出を推進する看護実践モデルの提案
- 3) 大湾明美（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造
- 4) 比嘉憲枝（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）親子分離が青年期の発達課題である自己概念の形成に及ぼす影響

砂川ゆかり

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文

- 1) 山口初代, 大湾明美, 田場由紀, 砂川ゆかり. (2023). 要介護高齢者の就労支援の事例にみる地域ケアへの貢献—対象の捉え方とケア方法から—. 沖縄県立看護大学紀要, 24, 49-59.
- 2) 大川嶺子, 砂川ゆかり, 山口初代, 上里さとみ. (2023). 精神科巡回診療に携わる看護師による島で暮らし続けるためのセルフケア支援, 沖縄県立看護大学紀要, 24, 37-48.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 砂川ゆかり, 田場由紀, 山口初代, 光来出由利子, 大湾明美. (2022). 要介護高齢者の社会貢献を推進する看護実践に大切なもの—“接面”の概念を活用して—. 日本老年看護学会第27回学術集会, WEB開催, 2022年6月.
- 2) 東嵩西寿枝, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2022). 急性期病院における要介護高齢者の退院支援—本人と家族の退院時意向に焦点をあてて—. 日本老年看護学会第27回学術集会, WEB開催, 2022年6月.
- 3) 山口初代, 大湾明美, 田場由紀, 砂川ゆかり. (2022). 要介護高齢者の介護予防活動を就労につなげる支援（第2報）—介護予防活動の場の支援の特徴に焦点をあてて—. 日本老年看護学会第27回学術集会, WEB開催, 2022年6月.
- 4) 美底恭子, 砂川ゆかり, 大湾明美. (2022). 「島で住み遂げる」を支えるケア力を育む実践. 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会, WEB開催, 2022年9月.
- 5) 鈴木美恵, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2022). 地元出身看護助手が意図する島外出身看護師へのサポート, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会. WEB開催, 2022年9月.
- 6) 田場由紀, 大湾明美, 砂川ゆかり, 山口初代. (2022). 介護サービスに参入する小離島住民が感じる障壁. 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会, WEB開催, 2022年9月.
- 7) 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり. (2023). 人と人とのつながりが深い小離島の介護力向上をめざした協働の課題. 第15回文化看護学会学術集会, 千葉県, 2023年3月.
- 8) 鈴木美恵, 田場由紀, 砂川ゆかり, 山口初代, 光来出由利子. (2023). A島における認知症初期集中支援活動に継承される地域文化. 第15回文化看護学会学術集会, 千葉県, 2023年3月.

5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・ 日本老年看護学会の会員
- ・ 日本ルーラルナーシングの会員
- ・ 文化看護学会の会員

【社会活動】

- ・ ボランティア活動：与儀地区防犯パトロール

【学内教育活動】

学部：老年保健看護Ⅱ、老年保健看護演習（5月～7月）、老年保健看護実習Ⅰ（5月～6月）、老年保健看護実習Ⅱ（5月～7月）、在宅保健看護実習（10月）、看護統合実習（2人）、看護卒業論文（2人）

別科助産専攻：なし

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

- ・ 地域連携協働センター運営委員会、3年次部会

【学長奨励研究】

- ・ 砂川ゆかり、要介護高齢者の社会貢献への支援の現状にみる課題 - 実践現場における支援の普及に向けて -

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 砂川ゆかり（研究代表者）若手研究（2019～2022）要介護高齢者の社会貢献による生きがいづくりを推進する看護実践モデルの開発
- 2) 田場由紀（研究分担者）基盤研究C（2019～2023）小離島の「互助」を活かした高齢者ケアの創出を推進する看護実践モデルの提案
- 3) 田場由紀（研究分担者）基盤研究C（2022～2024）へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援
- 4) 大湾明美（研究分担者）基盤研究C（2017～2022）地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価
- 5) 大湾明美（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造
- 6) 佐久川政吉（研究分担者）基盤研究C（2017～2022）「オオキナ和」プロジェクトによる相互扶助を活かした地域包括ケアシステム開発

佐久川政吉

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文（なし）

3. 著書（なし）

4. 学会発表（なし）

- 1) 佐久川政吉, (2022): 指定交流集会1『島嶼における看護人材育成』大学院教育の立場から: 「島嶼保健看護」を中心に, 日本ルーラルナーシング学会第17回学術集会, 長崎県, WEB開催, 2022年9月.

5. その他研究活動 現在取り組んでいる研究

- ・ 島嶼・へき地のケア: 地域ケアシステム, 在宅ケア (訪問看護等), 人材育成・確保
- ・ 地域住民等との協働: まちづくり, 小中学生・高校生のボランティア, ピアサポート
- ・ 概念と実践・地域貢献との相互関係: 「ストレングス」「当事者」「島嶼」「包摂」

【学会等における活動】

- ・ 日本ルーラルナーシング学会評議員, 査読委員, 第17回学術集会 (長崎, Web開催) 企画委員, 一般演題第8群「へき地で暮らす高齢者への支援 (口演) 座長
- ・ 文化看護学会会員
- ・ 日本島嶼学会会員
- ・ 島嶼コミュニティ学会会員
- ・ 日本老年看護学会会員
- ・ 日本認知症ケア学会会員

【社会活動】

- ・ 日本看護協会訪問看護総合支援センター試行事業 第三者評価作成チーム
- ・ 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会理事 (プライマリケア看護)
- ・ JNAPU 災害支援対策委員会 沖縄小ブロック委員
- ・ 沖縄県介護保険広域連合 (中部) 認定審査会委員
- ・ 沖縄県病院事業局: 島嶼看護体験研修講師
- ・ 沖縄県訪問看護推進協議会委員
- ・ 沖縄県看護協会認定看護管理者教育課程ファーストレベル講師
- ・ 沖縄県・那覇市新型コロナウイルス感染症支援: 学内外とのコーディネーター, 応援業務: 那覇市保健所 (3日), 中部保健所 (4.5日), 宮古保健所 (7日), 那覇市保健所学生有償ボランティアのコーディネーター (8-9月), 宮古保健所学生ボランティアのコーディネーター (8月)
- ・ 那覇市保健所運営協議会委員
- ・ 沖縄市福祉のまちづくり推進懇話会副会長
- ・ 沖縄市地域包括支援センター運営協議会会長
- ・ うるま市地域包括支援センター運営協議会委員
- ・ 金武町地域包括支援センター地域個別ケア会議スーパーバイザー
- ・ 子ども居場所学生ボランティアセンター副センター長
- ・ 地域貢献 (ボランティア活動): 与儀小学校区まちづくり協議会委員, 与儀地区花壇整備・清掃活動, 与儀地区防犯パトロール隊, トックリキワタ祭り企画委員, 与儀小学校読み聞かせ, 神原小学校朝活動, ひとり暮らし高齢者傾聴, 寄宮中看護体験ツアー, 与儀小保健委員・養護教諭との企画・コーディネーター, 那覇市健康フェアへの出展企画・参加, 那覇市総合防災訓練への参加

- ・ NPO法人すむづれの会理事
- ・ 社会福祉法人ともいきの会理事
- ・ 日本リウマチ友の会沖縄支部役員

【学内教育活動】

学部：早期体験実習（5日）、島嶼・国際保健看護実習（11月）、看護専門職論Ⅰ、看護専門職論Ⅱ、島嶼・国際保健看護、災害看護、在宅保健看護実習（9月～10月）、看護大学ゼミナールⅡ、看護統合実習（4名）、看護卒業論文（4名）

博士前期課程：実践島嶼保健看護演習Ⅰ、実践島嶼保健看護演習Ⅱ、実践島嶼保健看護実習Ⅰ、実践島嶼保健看護実習Ⅱ

博士後期課程：島嶼保健看護特論Ⅱ、島嶼保健看護特別研究Ⅱ

研究指導教員：博士前期課程（2名）、博士後期課程（1名）

研究指導補助教員：博士前期課程修了者数：2名

【学内委員会活動等】

教育研究審議会、全学自己点検評価検討委員会、島嶼保健看護研究開発センター企画等WG、地域連携協働センター運営委員会、研究・研修委員会、大学院教務委員会、宮古・八重山地区保健看護人材育成推進協議会

【学長奨励研究】

1. 松田めぐみ，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）禍で継続している自治会活動の実際，（共同研究者）佐久川政吉

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 佐久川政吉（研究代表者）基盤研究 C（2016～2022）「オオキナ和」プロジェクトによる相互扶助を活かした地域包括ケアシステム開発
- 2) 佐久川政吉（研究代表者）基盤研究 C（2022～2024）琉球弧の小離島診療所看護師と住民との協働による島嶼包摂ケアの創出
- 3) 安仁屋優子（研究代表者）基盤研究 C（2022-2025）離島・僻地の地縁を活かした持続可能なベストミックス近助ケアシステムの構築（研究分担者：佐久川政吉）
- 4) 長嶺絵里子（研究代表者）島しょ・僻地の強みを活かした青年期・思春期間のピアカウンセリング・プログラム開発（2021～2024）（研究分担者：佐久川政吉）

松田めぐみ

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文
 - 1) 松田めぐみ、永田美和子、前上門ルミ、中村ルミ子、大城良太、岸本美智子 沖縄県過疎地域に暮らす高齢者の介護予防「基本チェックリスト」からみた実態と課題—集団住民健康診査の参加者の分析から—, 沖縄県立看護大学紀要, 24, 81-87
3. 著書（なし）
4. 学会発表
 - 1) 松田めぐみ、永田美和子、前上門ルミ、中村ルミ子、大城良太、岸本美智子 「基本チェックリスト」からみた沖縄県過疎地域に暮らす高齢者の実態と課題, 日本ルーラルナーシング学会学術集会, WEB開催, 2022年9月
5. その他研究活動（なし）

【学会等における活動】

- ・日本公衆衛生学会会員
- ・日本在宅ケア学会会員
- ・日本ルーラルナーシング学会会員

【社会活動】

- ・新型コロナウイルス感染症支援：中部保健所にて自宅療養者の健康観察支援

【学内教育活動】

学部：島嶼保健看護（5月～7月）、在宅保健看護実習（9月～10月）、島嶼・国際保健看護実習（11月）
別科助産専攻：なし
博士前期課程：なし
博士後期課程：なし
研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）
博士前期・後期課程修了者数：なし
研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

地域協働連携センター運営委員会、4年次部会

【学長奨励研究】

松田めぐみ、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)禍で継続している自治会活動の実際

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

1. 佐久川政吉（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）琉球弧の小離島診療所看護師と住民との協働による島嶼包摂ケアの創出

西平朋子

【研究活動】

1. 原著論文（なし）

2. その他論文

- 1) 宮國友美、大城早苗、西平朋子、高野織恵、湯本律子、新垣朋美、照屋清子、玉城聡子、知念久美子、吉川千恵子. 久米島町の子どもたちの健やかな育ちを支援するー若年妊産婦の支援方策検討会の取り組みからー. 久米島研究, 第10号, 久米島研究会 2022年度会報.

3. 著書（なし）

4. 学会発表

- 1) 西平朋子、宮國友美、大城早苗、新垣朋美、湯本律子 久米島町の子どもたちの健やかな育ちを支援するー若年妊産婦の支援方策検討会の取り組みからー 令和4年度久米島研究会 2022年11月 沖縄県久米島町
- 2) 知念敦子、上原和代、西平朋子 新人看護師が抱く困難感への先輩看護師の気づきと変化ーアクションリサーチを用いた新人看護師教育プログラムの作成過程を通してー 令和4年度沖縄県小児保健協会学術集会 2022年4月 沖縄県

5. その他研究活動

- ・島嶼における在日外国人母親の子育て支援について取り組んでいる。
- ・小離島出身高校生に対するピアサポート支援体制の構築に向けて取り組んでいる。

【学会等における活動】

- ・日本助産学会誌：査読
- ・沖縄県の小児保健：査読
- ・日本助産学会会員
- ・日本母性衛生学会会員
- ・日本看護科学学会会員
- ・日本思春期学会会員
- ・日本乳幼児精神保健学会会員
- ・日本健康学会会員
- ・日本周産期メンタルヘルス学会会員
- ・GDI（性同一性障害）学会会員
- ・沖縄県小児保健協会会員
- ・沖縄県助産師会会員
- ・International Association for Human Caring (IAHC) 会員

【社会活動】

- ・沖縄 M-GTA 研究会委員（事務局）
- ・久米島子育て支援研究会の委員
- ・久米島町における「性に関する教育」を考える検討会の委員
- ・小離島出身中学生および高校生への島立ち支援

【学内教育活動】

学部：なし

別科助産専攻：助産学概論、基礎助産学演習（4月～5月）、助産診断・技術学演習Ⅱ（4月～7月）、ウィメンズ・ヘルス、地域母子保健演習（5月～6月）、助産管理学、生命倫理、健康教育論演習（5月～7月）、助産研究（4人）、助産実習、ウイメ

ンズ・ヘルス実習、離島実習

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

全学自己点検・評価検討委員会、情報セキュリティ委員会、入学試験委員会、ハラスメント防止・対策委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター、別科助産専攻、別科助産専攻運営委員会、専攻科設置準備ワーキンググループ

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 西平朋子（研究代表者）基盤研究C（2018～2022）島しょのユイマールを活かした在日外国人母親もいる子育て支援モデルの構築

大城早苗

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
宮國友美、大城早苗、西平朋子、高野織恵、湯本律子、新垣朋美、照屋清子、
玉城聡子、知念久美子、吉川千恵子：久米島町の子ども達の健やかな育ちを支援する
一若年妊産婦の支援方策検討会の取り組みー 久米島研究会にて報告 2022年10月
5. その他研究活動
大城早苗、宮國友美、西平朋子、玉城聡子、照屋清子：地域連携による A 島版「性に関
する教育」への取り組み

【学会等における活動】

- ・ 日本助産師会：会員
- ・ 沖縄県助産師会：会員
- ・ 日本看護協会：会員
- ・ 沖縄県看護協会：会員
- ・ 沖縄県小児保健協会：会員

【社会活動】

- ・ 社会貢献：久米島町中学校の「性に関する教育」について関連職種との取り組み

【学内教育活動】

別科助産専攻：基礎助産学、基礎助産学演習、助産診断・技術学演習Ⅱ、ウイメンズ・ヘルス、健康教育論演習、助産診断・技術学（4月）、地域母子保健演習（6月）、助産実習（8月～12月）、離島実習（12月）、助産研究（4人）

【学内委員会活動等】

大学広報委員会、別科助産専攻、別科助産専攻運営委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

宮國友美

【研究活動】

1. 原著論文（なし）
2. その他論文（なし）
 - 1) 宮國友美, 高良武博, 比嘉貴子, 上間直子. (2023). 母校の教育に模擬患者として参加した新人看護師の経験における気づき. 沖縄県立看護大学紀要. 24, 25-36
3. 著書（なし）
4. 学会発表（なし）
5. その他研究活動
 - 1) 宮國友美, 大城早苗, 西平朋子 他 (2023). 久米島町の子どもたちの健やかな育ちを支援する～若年妊産婦の支援方策検討会の取り組みから～. 久米島研究. 10. 12-13
 - 2) 現在取り組んでいる研究：修了生が模擬産婦として参加した分娩期シミュレーション教育

【学会等における活動】

- ・ 沖縄県助産師会 勤務助産師部会研修担当
- ・ 日本看護協会 会員
- ・ 日本看護学教育学会 会員
- ・ 沖縄県小児保健協会 会員

【社会活動】

- ・ 久米島町における「性に関する教育」への支援
- ・ 那覇市乳幼児学級 講師（11月8日）

【学内教育活動】

学部：なし

別科助産専攻：基礎助産学、基礎助産学演習（4月～6月）、助産診断・技術学、助産診断・技術学演習Ⅰ（4月～7月）、助産診断・技術学演習Ⅱ（4月～7月）、地域母子保健、地域母子保健演習（4月～6月）、ウイメンズ・ヘルス、助産実習（8月～12月）、ウイメンズ・ヘルス実習（1月）、離島実習（12月）、健康教育論演習（4月～7月）、助産研究（6人）

博士前期課程：なし

博士後期課程：なし

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（なし）

博士前期・後期課程修了者数：なし

研究員受入れ：なし

【学内委員会活動等】

学生委員会、別科助産専攻、別科助産専攻運営委員会

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

神里みどり

【研究活動】

1. 原著論文

- 1) Mariko Oshiro, Midori Kamizato, Sayuri Jahana. (2022). : Factors related to help-seeking for cancer medical care among people living in rural areas : a scoping review. BMC Health Services Research, 22 (836), 1-17.
- 2) 源河朝治, 神里みどり. (2022). 放射線照射後1年以上が経過した頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と社会的困難との関連. 日本緩和医療学会誌, 17(3), 87-96.
- 3) 謝花小百合、大城真理子、具志堅翔子、神里みどり (2022). シミュレーションを活用した終末期がん患者の臨終後の家族ケアにおける学生の学び 日本シミュレーション医療教育学会雑誌 10, 81-89.

2. その他論文 (なし)

3. 著書 (なし)

4. 学会発表

- 1) 神里みどり. 沖縄における看護専門職育成の課題と展望、VUCA の時代 看護に問われるリーダーシップとは(シンポジスト) 2022年11月 WEB
- 2) 神里みどり 地域包括ケア時代に必要な島嶼看護の実践能力の育成 (シンポジスト)、第60回全国自治体病院学会 2022年11月 那覇
- 3) 神里みどり. 沖縄県立看護大学大学院の NP 教育課程の特色、交流集会 : 長江弘子、田中美恵子、神里みどり、原沢のぞみ : プライマリケア看護 NP 教育課程 (JANP-NP) の修了生の活動と意義 第42回日本看護科学学会学術集会 2022年12月 広島
- 4) Mariko Oshiro, Midori Kamizato : The environment of help-seeking for breast cancer care among small-islander women: A pilot study 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 3月 Tokyo
- 5) Mariko Oshiro, Midori Kamizato, Takako Higaonna Issues Pertaining to Breast Cancer Care in Remote Islands: From the Perspective of the Members of Breast Cancer Patient Groups. 7th WANS 2022 Taipei
- 6) Kayo Nagano, Naomi Aka, Midori Kamizato. Challenges in home management of implantable ventricular assist devices recognized by healthcare professionals in Japan: Strengthening shared care with destination therapy. 7th WANS 2022 Taipei
- 7) 佐伯香織、星野純子、神里みどり ホルモン療法中の閉経前乳がん患者の睡眠悪化に関連する治療前の要因 : 第37回日本がん看護学会学術集会 2023年2月 横浜
- 8) 源河朝治、神里みどり : 頭頸部がんサバイバーが生活体験から見出した晩期有害事象への対処行動 : 第37回日本がん看護学会学術集会 2023年2月 横浜
- 9) 玉井なおみ、木村安貴、吉澤龍太、神里みどり : COVID-19 感染拡大下の行動制限によるがんサバイバーの身体活動の変化と心身に及ぼす影響 : 第37回日本がん看護学会学術集会 2023年2月 横浜
- 10) 玉井なおみ、木村安貴、吉澤龍太、神里みどり : COVID-19 感染拡大下の行動制限による乳がんサバイバーの身体活動の変化が心身やQOLに及ぼす影響 第37回日本がん看護学会学術集会 2023年2月 横浜
- 11) 吉澤龍太、玉井なおみ、木村安貴、神里みどり : COVID-19 感染拡大に伴う行動制限下における乳がんサバイバーの身体活動の変化の実態 第37回日本がん看護学会学術集会 2023年2月 横浜

5. その他研究活動

- ・名古屋大学保健学部教員 (研究代表者 : 佐伯香織) との共同研究 : ホルモン療法中の

- 閉経前乳がん患者の症状クラスターとマネジメントプログラムの開発
- ・ 島嶼保健看護やがん看護、VADに関する科研費の研究

【学会等における活動】

- ・ 日本緩和医療学会：補完代替療法ガイドライン改訂 WPG 員
- ・ 日本看護系大学協議会：高度実践看護師教育課程認定委員会委員（プライマリケア分野委員長）
- ・ 日本看護系大学協議会：JANPU-NP 資格認定委員会委員
- ・ 日本看護系大学協議会：APN グランドデザイン委員会委員（5月まで）
- ・ 日本看護科学学会誌：和文誌専任査読委員
- ・ 日本看護研究学会誌：専任査読委員
- ・ 日本がん看護学会誌：専任査読委員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会誌：専任査読委員
- ・ 日本看護医療学会誌：専任査読委員
- ・ 日本看護科学学会社員：代議員
- ・ 日本がん看護学会：代議員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会：第6期評議員、広報委員
- ・ 日本看護医療学会：第8期評議員
- ・ 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会：代表理事
- ・ 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会：代議員会がん看護担当理事
- ・ 九州・沖縄高度実践看護師活動促進協議会：講演会の座長
- ・ 第42回日本看護科学学会学術集会：査読
- ・ 第37回日本がん看護学会学術集会：査読
- ・ 那覇市立病院雑誌：査読
- ・ 日本看護科学学会：会員
- ・ 日本がん看護学会：会員
- ・ 日本看護研究学会：会員
- ・ 日本ルーラルナーシング学会：会員
- ・ 日本看護医療学会：会員
- ・ 日本緩和医療学会：会員
- ・ 日本統合医療学会：会員
- ・ 文化看護学会：会員
- ・ 日本アルコール関連問題学会：会員
- ・ SCOPE: Health & Wellbeing Editorial Board member (NZ)

【社会活動】

- ・ 文部科学省：大学設置・学校法人審議会委員
- ・ 国立大学法人琉球大学：病院長候補者選考会議委員
- ・ 名桜大学大学院：非常勤講師
- ・ 沖縄大学：外部評価委員会委員
- ・ 那覇市立病院：評価委員会委員
- ・ 沖縄赤十字病院：地域医療支援委員会委員
- ・ 沖縄県看護系大学連携協議会設立準備（会則作成、構成員の決定等）
- ・ 名桜大学：大学院がん看護専門看護師教育課程申請にかかるコンサルタント
- ・ GRNEN: Global Rural Nursing Exchange Network Ambassador (USA)

【学内教育活動】

学部：専門職論 I

博士前期課程：なし

博士後期課程：保健看護と研究 II（デザイン編）、保健看護と研究 II（執筆編）

成人保健看護特別研究Ⅱ、新領域保健看護特別研究Ⅱ
島嶼保健看護特論Ⅱ、新領域保健看護特論Ⅱ

研究指導教員：博士前期課程（なし）、博士後期課程（4人）
博士前期・後期課程修了者数：博士後期課程修了者（1人）
研究員受入れ：3人（科研費取得者2人含む）

【学内委員会活動等】

全学自己点検評価検討委員会、人事委員会、研究不正防止計画推進委員会、沖縄島嶼保健看護協働センター（オブザーバー）、大学院FD研修

【学長奨励研究】

【公益信託宇流麻学術研究助成基金】

【外部資金獲得】

- 1) 神里みどり（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）
太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築
- 2) 玉井なおみ（研究代表者）基盤研究C（2022～2024）乳がん患者の持続可能なオーダーメイドウォーキング・ケアプランの構築と標準化の確立
- 3) 野田千代子（研究代表者）若手研究（2019～2022）本大学研究員
ルーラル地域で働く看護職者に必要なコンピテンシーと教育プログラムの開発
- 4) 大城真理子（研究代表者）若手研究（2020～2022）
離島に特化した乳がん患者の受診遅延者の特徴と看護援助の方略
- 5) 永野佳世（研究代表者）若手研究（2020～2022）本大学研究員
在宅で補助人工心臓を装着する終末期心不全患者と介護者の支援モデルの構築
- 6) 源河朝治（研究代表者）若手研究（2022～2024）
外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発
- 7) 謝花小百合（研究代表者）基盤研究C（2015～2022）
沖縄独自の死の文化を基盤にした看取り教育プログラムの開発

全学自己点検・評価検討委員会

1. 委員会構成

委員：◎神里みどり、○喜舎場健太、賀数いづみ、宮里智子、金城忍、佐伯宣久、
金城芳秀、佐久川政吉、西平朋子、仲松則夫、七條優子
事務局：川満杉子、川上大

2. 活動概要

- (1) 令和3年度自己点検評価の実施
各種委員会から提出のあった最終評価報告書について点検及び評価を行った。
- (2) 法人化後の新たな自己点検・評価方法の検討
法人評価委員会の法人評価と可能な限り連動し、作業の効率化を図れるよう、県と情報共有しながら新たな自己点検評価方法及び様式を決定し、「大学評価手順申し合わせ」を作成した。
- (3) 認証評価機関及び受審時期の検討
次回の認証評価は、大学教育質保証・評価センターによる評価を令和9年度に受審することに決定した。
- (4) 令和5年度計画の策定
「中期目標、中期計画及び年度計画一覧表（6年後のすがた）」に基づき、新たな課題の確認や対応案の検討した上で、令和5年度の年度計画を策定した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 地方独立行政法人法の改正により年度計画が廃止された後の大学評価について、どのような仕組みとするのか検討が必要である。

危機管理委員会

1. 委員会構成

委員：○山本敬子、金城忍

事務局：◎喜舎場健太、仲松則夫、川満杉子、屋比久瑞季

2. 活動概要

(1) 危機管理体制の見直しについて

法人化前に県の方針に基づき事業継続計画を策定し、個別マニュアルも策定しているが、現行の事業継続計画では明確になっていない執行体制や対応手順等を明確にするために、事業継続計画（BCP）の基本的な考え方を策定し、今後の方針をまとめた。

(2) 災害発生等を想定した訓練の実施について

学生及び教職員の安全を確保するために、不審者侵入対策訓練及び地震発生に伴う火災を想定した避難訓練を実施した。不審者侵入対策訓練においては、警察署職員の協力を得てさすまたの使用方法を習い、学生の体験の場とした。

(3) 新型コロナウイルス感染症に関連する対応について

県の対処方針を踏まえ、学内の感染対策を適切に実施した。感染症法上の5類感染症への位置づけ変更に際しては、学内活動指針や授業方針等の変更を行い、新学期における混乱が生じないように適切に対応した。

(4) 緊急連絡網について

緊急連絡網を整備し学内の教職員へ配布した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 学生を含めた避難訓練は3年ぶりの実施であったため、全員が避難するまでに時間を要した。次年度は避難に掛かる時間を短縮できるよう避難誘導役の配置を見直す等の対策を検討する。

(2) 避難訓練の実施に伴い、実地訓練を行うことができなかったため、次年度は水消火器及び屋内消火栓等を用いた実地訓練の実施ができるよう調整を行う。

情報セキュリティ委員会

1. 委員会構成

委員：◎賀数いづみ、○佐伯宣久、金城忍、宮里智子、西平朋子、栗島一博
事務局：喜舎場健太、仲松則夫、七條優子

2. 活動概要

- (1) 情報セキュリティに関する事件・事故への即応チームである CSIRT（シーサート）を設置した。
- (2) 法人化に伴い令和4年4月に情報セキュリティポリシーを制定したことから、教職員に周知するため情報セキュリティ研修を実施した。
- (3) 情報漏えいを防止するため、学外へのデータ等持ち出しについては申請書の提出による運用とし、注意事項を含め職員へ周知を行った。
- (4) 情報セキュリティポリシーの制定による変更や時点修正のため、情報セキュリティ対策標準の改定を行った。
- (5) 教職員の情報セキュリティに関する意識向上のため、琉球大学から講師を招き、セキュリティ対策のFD研修を開催した。
- (6) 今年度末に学生用パソコンの入れ替えがあることから、委員会でスペック等を検討し仕様書を決定した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 学生用パソコンの入れ替えを今年度を実施する予定だったが、予定価格が高額なことから政府調達（WTO）案件となったため、入替時期が8月に遅れることになった。
- (2) 情報セキュリティ対策標準の改定を行ったので、次年度からは情報セキュリティポリシーに基づく実施手順書の策定を進める。

人事委員会

1. 委員会構成

委員：◎神里みどり、○喜舎場健太、賀数いづみ、宮里智子
事務局：金城敏彦

2. 活動概要

- (1) 人事委員会を8回開催した。
- (2) 教員公募計画（案）の審議を行った。
- (3) 教員の採用について、審議を行った。
- (4) 長期研修に係る審議を行った。
- (5) 障害者雇用について、審議を行った。
- (6) 法人職員（大学事務）の採用方針などを審議した。
- (7) その他（研究指導教員の審議）

3. 次年度に向けた課題

- (1) 引き続き規程第5条に掲げる職員の採用、人事評価、表彰などに係る審議を行う。
- (2) 個人情報を取り扱うことから、より一層の情報管理の徹底を図る必要がある。

大学広報委員会

1. 委員会構成

委員：◎栗原幸子、○大城真理子、栗島一博、大城早苗、上里さとみ
事務局：川満杉子

2. 活動概要

(1) 「大学案内」の発行等

予定通り大学案内の発行を行った。大学案内等への掲載用の写真に活用できるよう、大学広報の目的意識を持って入学時から計画的に撮影を行った。

(2) 広報誌「かせかけ」の発行

予定通り「かせかけ」の発行を行った。新たなサークル活動の紹介、新入生歓迎球技大会、ウチナーンチュ大会ナースデーの外部講師による執筆など、令和4年度の活動の特性を活かした内容となった。

(3) オープンキャンパスを活用した広報活動の検討と実施

新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して、7月にWebオープンキャンパスを開催した。事前に参加者から、在校生との交流の中で質問したい内容を受付けたうえで、学部（第1部）、別科助産（第2部）を希望する参加者と在校生が小グループに分かれて交流した。参加者は、第1部（学部）95名、第2部（別科）13名の計108名であった。

(4) 大学紹介用動画の修正

平成28年度に作成した大学紹介動画を修正し、学部の助産選考コースの廃止や学士選抜など、本学の現状に合わせた内容に更新した。

3. 次年度に向けた課題

(1) オープンキャンパスについては、Web開催は対面開催に比べて参加者が大幅に減少していることから、次年度は対面で行うことを検討する。

(2) 大学紹介用動画については、肖像権の関係等から内容の全てをネット配信対応にはできなかったため、大学行事など本学を紹介する場で有効に活用していく必要がある。数年後に入試内容の変更が予定されていることから、今後もタイムリーに修正を行っていく。

衛生委員会

1. 委員会構成

委員：◎喜舎場健太、米納浩幸、○山本敬子、牧内忍、天久いつ子
事務局：仲松則夫、高良真弓

2. 活動概要

- (1) 衛生委員会を月1回開催した。
- (2) あらかじめ学内にスケジュールを提示した上で職場一斉点検、年2回のクリーン作戦を実施し、計画的な不用物品の廃棄を促進した。
- (3) 職場環境における法定検査（水質検査・大気測定・電気設備・温度・照度等）を実施した。
- (4) 勤務管理システムによる出退勤打刻を徹底し、毎月の勤務状況の把握と課題整理を行った。
- (5) 年度当初に健康診断を実施した。
- (6) ストレスチェックを実施し受検率は94%だった。
- (7) 全学的な休暇取得週間を設定し、教職員の休暇取得を促進した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 引き続き勤務管理システムによる出退勤打刻を徹底し、毎月の勤務状況の把握を行うとともに、課題解決への具体策を検討・試行する必要がある。
- (2) ストレスチェックの結果（集団分析）を学内へフィードバックする必要がある。

入学試験委員会

1. 委員会構成

委員：◎佐伯宣久、○山城綾子、山口初代、栗島一博、西平朋子
事務局：七條優子、長田大地

2. 活動概要

(1) 令和5年度看護学部入学者選抜試験ならび令和5年度別科助産専攻入学者選抜試験を計画し実施した。

【看護学部】 令和5年6月13日 訂正版

試験区分	募集人員	志願者数 (志願倍率)				受験者数				合格者数				入学者数									
		男	女	県内	県外	男	女	県内	県外	男	女	県内	県外	男	女	県内	県外						
看護学部	一般選抜	前期日程	50	114 (2.3)	14	100	110	4	107	14	93	104	3	50	7	43	48	2	50	7	43	48	2
		後期日程	5	111 (22.2)	12	99	97	14	36	4	32	35	1	6(1)	0	6(1)	5(1)	1	5	0	5	5	0
	計	55	225 (4.1)	26	199	207	18	143	18	125	139	4	56(1)	7	49(1)	53(1)	3	55	7	48	53	2	
	特別選抜	離島・過疎 地域推薦	8	11 (1.4)	0	11	11	0	11	0	11	11	0	8	0	8	8	0	8	0	8	8	0
		高校推薦	15	49 (3.3)	3	46	48	1	49	3	46	48	1	17	1	16	16	1	17	1	16	16	1
学士		2	0 (-)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	25	60 (2.4)	3	57	59	1	60	3	57	59	1	25	1	24	24	1	25	1	24	24	1		
合計	80	285 (3.6)	29	256	266	19	203	21	182	198	5	81(1)	8	73(1)	77(1)	4	80	8	72	77	3		

※合格者数の括弧の人数は追加合格者数(内数)

【別科助産専攻】

試験区分	募集人員	志願者数 (志願倍率)		受験者数		合格者数		入学者数					
		県内	県外	県内	県外	県内	県外	県内	県外				
産科専門施設勤務者枠	2	3 (1.5)	3	0	3	3	0	2	2	0	2	2	0
医療施設勤務者枠	2	8 (4.0)	8	0	8	8	0	2	2	0	2	2	0
看護専門学校推薦枠	3	7 (2.3)	7	0	7	7	0	3	3	0	3	3	0
看護学士枠	3	3 (1.0)	3	0	3	3	0	3	3	0	3	3	0
一般選抜	10	30 (3.0)	22	8	28	20	8	9	8	1	9	8	1
計	20	51 (2.6)	43	8	49	41	8	19	18	1	19	18	1

(2) 令和5年度看護学部入学者選抜試験ならび令和5年度別科助産専攻入学者選抜試験の受験希望者に対して学内対面説明会を実施した。

- ・学内ツアーを導入した学内対面入試説明会を実施し109人の参加者を得た。
- ・教室に集合して説明をした際には質問は全く出なかったが、本学学生がガイドを務めた学内ツアーでは、学生に対して参加者から多くの質問があった。今年度は初の試みとして、ホームページにて入試説明動画を予め配信し、対面説明会は学生ガイドによる学内ツアーを中心に実施したが、このような形式の説明会も効果的なのでは

ないかと分析している。

- (3) 大学コンソーシアム主催の県内大学 WEB 入試説明会において、令和 5 年度看護学部入学者選抜試験に関する情報発信をおこなった。
- (4) 令和 7 年度看護学部入学者選抜試験の内容を検討し実施概要案を作成した。
- (5) 県外 3 大学（宮城大学・東北福祉大学・三重県立看護大学）を訪問し、入試に関する意見交換・情報収集をおこなった。
・面接試験の実施状況など参考となる情報が得られた。
- (6) 別科助産専攻の専攻科への移行の準備として、他大学専攻科で行われている入試に関する情報収集をおこなった。
- (7) 入試業者を講師に招き、教員を対象とした学部入試に関する FD 研修を実施した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 令和 7 年度看護学部入学者選抜試験の実施について、詳細事項の検討を進める。
- (2) 令和 8 年度助産専攻科入学者選抜試験の概要を決定する。

ハラスメント防止・対策委員会

1. 委員会構成

委員：◎金城忍、大川嶺子、西平朋子
事務局：喜舎場健太、○仲松則夫、高良真弓

2. 活動概要

- (1) 外部カウンセラーを委嘱した。
- (2) 新学期や実習前にハラスメントに関するインフォメーションを実施した。
- (3) ホームページにてアンケートを実施し、さらにホームページおよび紙媒体での相談受付を実施した。
- (4) オンライン相談室を設置した。
- (5) ハラスメント相談員の研修として、委員会メンバーが他大学主催の研修会に参加した。
- (6) 年度末、別科助産専攻科学生に対して授業内容、授業展開、ハラスメントの有無について話し合いの場を設けた。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 継続して、新学期や実習前のハラスメントに関するインフォメーションの実施、ホームページ、紙媒体での相談受付を行っていく。
- (2) 教職員や学生に向けて、ハラスメント防止に関する情報の周知を行っていく。

研究不正防止計画推進委員会

1. 委員会構成

委員：◎神里みどり、○賀数いづみ、山本敬子

事務局：喜舎場健太、仲松則夫

2. 活動概要

- (1) 競争的資金の使用ルールやそれに伴う責任を確認し、不正防止を図る観点から、教職員を対象に「研究不正防止のためのコンプライアンス研修」を開催した。また、開催後に研修に関する確認テストを実施した。
- (2) 本学の「公的研究費不正使用及び研究不正行為防止に関する規程」に基づく研究倫理教育セミナーの代替として、教職員及び院生を対象にeラーニングを実施した。
- (3) 文科省ガイドラインに基づく「研究不正防止に係る啓発活動」として、教職員を対象に研究不正防止に関する情報提供をメールにより実施した。
- (4) 利益相反状態により生じる弊害を防止するため、利益相反管理委員会及び利益相反審査委員会を開催し、外部委員により利益相反状態に無いことを確認した。
- (5) 科研費交付条件及び「内部監査規程」に基づき、科研費内部監査を実施し、適正に処理されていることを確認した。
- (6) 本学の「研究に関する記録及び研究データの保管要綱」等に基づき、教員に対し研究記録・研究データ管理簿の提出について周知した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 今年度はコンプライアンス研修などの開催が遅かったため、研修効果の観点からも次年度は早期に実施する必要がある。
- (2) 研究倫理教育セミナーはeラーニングによる実施が続いていたことから、次年度は外部講師を招いて開催することを確認した。

研究・研修委員会

1. 委員会構成

委員：◎賀数いづみ、○井上松代、田場由紀、佐久川政吉、宮里智子、山口賢一、
岡崎実子

事務局：喜舎場健太

2. 活動概要

- (1) 学長奨励教育研究費の募集及び申請された研究計画について審議し、学長へ報告を行った。また、採択された研究に予算を配分し教授会へ報告を行った。
- (2) 学長奨励研究及び宇流麻学術研究の採択者に発表の場を確保するため、研究活動報告会、発表者交流会を開催した。
- (3) 教員の研究時間確保のため、研究活動計画に関するアンケート及びヒアリング調査を行った。
- (4) 科研費申請者を支援するため、教員に対し「科研申請のポイント」として情報提供を行った。
- (5) 研究員の期間更新及び新規受入について、申請内容に関する審議を行った。
- (6) 教職員・大学院生を対象に、「看護学生の主体性を育む教育技法 協同学習を学ぼう！」をテーマに外部から講師を招きFD研修を実施した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 研究時間確保に関する「研究活動計画に関するアンケート及びヒアリング調査」を行った結果、様々な意見を集約することが出来た。引き続き調査を行いつつ、確保ができていない領域の事例を他領域に展開するなど、具体的な手法を検討する。
- (2) 研究活動推進のため、個人研究費の見直しやサバティカル制度等の導入を検討しているが、どのように具体化するかが課題である。

紀要編集委員会

1. 委員会構成

委員：◎金城芳秀、上原和代、金城忍、○謝花小百合

事務局：金城秀明

2. 活動概要

(1) 沖縄県立大学紀要 24 号の編集

年 2 回の原稿募集により、ここ数年では最多の 9 編を掲載し、目標掲載数 6 編以上を達成した。原稿種類は、原著 1 編、研究報告 5 編、その他 3 編を大学ホームページにて公表すると共に、沖縄県立看護大学リポジトリにおいても閲覧できる。

(2) 教育実践紀要第 8 巻の編集

新たに「コロナ禍の軌跡」を第 8 巻第 1 号として企画・編集した。神里みどり学長の「はじめに：目に見えない感染症と立ち向かったわが大学の軌跡」から、佐伯宣久 附属図書館長の「おわりに：パンデミックのポジティブな影響を生かして前進したい」まで、計 29 編の寄稿すべてを大学ホームページにて公表した。

シンセサイザーの実践教育への活用（掲載数 8 編）は第 8 巻第 2 号として、同じく大学ホームページにて公表した。

(3) シンセサイザーディスカッション（専門領域別・最新英文文献の抄読）

以下、8 領域のディスカッションにおいて、目標値（参加者数が領域教員数+2 人以上）が達成できたのは 7 領域（88%）であった。領域教員以外の参加者が多かったのは、基礎看護と小児保健看護でいずれも 7 名であった。

※参加者数（領域教員数）

基礎看護：12(5)	老年保健看護：8(4)
小児保健看護：11(4)	成人保健看護：7(7)
母性保健看護・助産：9(7)	教養科目・専門関連科目：7(5)
精神保健看護：9(4)	地域保健看護：7(5)

3. 次年度に向けた課題

大学紀要、教育実践紀要への投稿およびシンセサイザーの参加を促進する方策を引き続き実施する。とくに、教育実践紀要は投稿状況をふまえて新たな企画を提案し、教育に関連する委員会活動も取り上げて、教育実践として可視化を目指す必要がある。

研究倫理審査委員会

1. 委員会構成

委員：◎金城芳秀、○赤嶺伊都子、上原和代、金城忍
川津知大、川間佳子、吉田安規良
事務局：七條優子

2. 活動概要

(1) 研究倫理審査の審議

「公立大学法人沖縄県立看護大学研究倫理委員会規程」および「公立大学法人沖縄県立看護大学研究倫理委員会運営要領」に則して、研究倫理審査申請書一式（研究計画書を含む）を審査した。その際、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（新統合指針 2021）」（令和 3 年 4 月）を基本指針として参照した。審査件数は計 23 件（一般審査 17 件、迅速審査 6 件）であり、承認件数は 19 件であった。なお、令和 4 年度の審査はすべてオンライン（ZOOM）で行った。

(2) 研究倫理研修会の開催

令和 4 年度研修会では、研究倫理審査で要修正の指摘が多い項目、申請者面談の判断条件、利益相反（責務相反）、さらには新統合指針 2021 による最近情報の共有を図った。対象は本学の教員および大学院生とし、後日、欠席者も視聴できるように ZOOM 録画資料を共有した。

(3) その他

令和 4 年度末に同年度の申請者に匿名調査を行い、本委員会への要望を確認した。その結果、18 人から回答があり、倫理とは関係ないコメントなど改善点が示された。加えて、オンライン審査の継続と、SNS での調査研究に関する FD 研修や情報提供を企画して欲しいなど要望もあった。オンライン審査は審査側からも継続の要望がある。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 審査コメントが、研究倫理申請書と研究計画書の不整合の指摘に終始している現状を脱するために、研究倫理申請書を刷新する必要がある。
- (2) 新統合指針 2021 への対応にむけて、「研究倫理のための確認リスト」を大幅に改訂し、添付関連書類（同意書、同意撤回書など）の文書例も更新する。

地域協働連携センター運営委員会

1. 委員会構成

委員：◎佐久川政吉、○山口初代、鈴木ミナ子、牧内忍、上里さとみ、當間みゆき、砂川ゆかり、松田めぐみ

事務局：砂川綾子、徳田晶子

2. 活動概要

(1) 地域貢献活動

- ・与儀地区での小学校区まちづくり協議会、花壇整備・清掃活動、防犯パトロール隊、トックリキワタ祭り企画委員、与儀小読み聞かせ、神原小朝活動、ひとり暮らし高齢者の傾聴、寄宮中看護体験ツアー、与儀小保健委員・養護教諭との企画を行った。
- ・那覇市健康フェアへの出展、那覇市総合防災訓練に参加した。
- ・学生ボランティアの企画・推進：ボランティアガイダンス、与儀小・神原中の生徒へのピアサポートの募集・調整・教育、学生ボランティア表彰者の推薦、地域等からのボランティア募集への対応・掲示等を行った。
- ・那覇市地域包括センター古波蔵との協働：地域ケア会議への参加、民生委員・高齢者等の本学内でのボランティア活動のコーディネートを行った。

(2) 子ども居場所学生ボランティアセンターとの協働

副センター長としての会議に参加し、学生への事前研修・有償ボランティアの登録・案内を行った。

(3) 新型コロナウイルス感染拡大による保健所等への業務支援のコーディネート

県や那覇市から要請時の各保健所への教員派遣のコーディネートを行った。

3. 次年度に向けた課題

継続して、学生ボランティア（ピアサポーター、子ども居場所ボランティア等）の調整等の支援、教員の与儀地区での地域貢献活動の推進、他機関との連携による活動、公開講座、ナーシングリーダーシップ会議等の開催に努める。

仮) 島嶼保健看護研究開発センター企画等ワーキンググループ

1. 委員会構成

委員：◎佐久川政吉、○喜舎場健太、山口初代、上原和代、西平朋子、宮里智子、
知念真樹、知念久美子
アドバイザー：津波勝代
事務局：川上大

2. 活動概要

(1) 次年度の仮) 沖縄島嶼保健看護協働センター設置に向けた準備・調整

- ・本法人の中期目標・計画を共有し、設置規定の作成、「施策の体系」の作成、センターの名称（日本語・英語標記）の決定、本学の「島嶼保健看護の基本的な考え方」について検討し決定した。
- ・島嶼町村の情報収集を行い、モデル町村候補を検討した。
- ・各委員の企画案から「施策の体系」を作成した。

(2) 次年度からのモデル地区での協働の準備・調整

- ・地域包括ケアシステムの住民会議に向けて、多良間村と調整し合意形成まで行った。
- ・島立ち後の課題が挙げられた多良間村の中学校・教育委員会・役場・在沖郷友会と協働で、新高校生への本学学生によるピアサポートの仕組みづくりを行った。
- ・欠員のある保健師等の確保のためのモデル地区の決定（久米島町）、および産学官連携に向けた合意形成を行った。
- ・「官」のモデル町村（多良間村、久米島町）との包括協定（産学官連携）に向けた「民」の公益社団法人との協定に向けた合意形成を行った。
- ・県の予算確保への調整・申請を行った。

(3) 島嶼に関する教育活動（教務委員会）、研究活動（研究・研修委員会等）の把握

- ・学部の島嶼での学生実習数 100 人を目標値として設定した達成できた（116 人）。
- ・大学院「実践島嶼保健看護」（NP コース）の特別人材育成枠の設置（研究科委員会）、実践島嶼保健看護の大学院生の演習・実習を順調に実施した。
- ・紀要の島嶼関連論文を把握した（4 編）。

(4) その他

- ・本学の島嶼の保健医療機関での従事者数、離島過疎地域推薦枠等の島嶼での就職状況の把握を行った。
- ・石垣市での本学卒業生等による次世代応援プロジェクト「ミーファイユプロジェクト

ト」に参加し情報共有した（同窓会との協働）。

3. 次年度に向けた課題

- ・モデル町村との産学官連携（住民会議、新高校生へのピアサポート、保健師等確保）の推進、「施策の体系」から優先して取り組んでいく活動として、島嶼に関連して、がん患者の相談、離島たびんちゅサークル（学生）等の推進に努める。また、外部資金確保として、科研費等への申請に努める。

国際交流室運営委員会

1. 委員会構成

委員：◎大川嶺子、○山口賢一、山城綾子、知念真樹、知念久美子、大城真理子
望月花
事務局：赤嶺洋哉

2. 活動概要

(1) ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジ(KCC)との交流

- ・前年度と同様に Web での研修開催を KCC 側に提案したが、KCC 側で検討が進まず実施できなかった。その後、再度調整を進め、令和5年5月実施に向け、プログラム作成などの研修準備を進めた。

(2) 台北医学大学(TMUN)との交流

- ・11月11日～22日に開催された2022 TMUN Online Exchange Programに本学から6名の学生が参加した。また、15名の学生が沖縄紹介動画の制作に関わり、3本の動画が上記プログラムの教材として利用された。
- ・令和5年3月13日～24日の海外研修「TMUN Exchange Program」には本学から5名の学生が参加した。これまで2回にわたり台湾の学生を受け入れていたが、看護大学の学生を派遣するのは初めてのことであった。

(3) ウチナーンチュ・ナースデイ

- ・10月29日に本学においてウチナーンチュ・ナースデイを開催した。対面およびWEBツール(ZoomとYouTube)を利用したハイブリット開催となった。
- ・講演会参加者は、約150名(対面参加97名、WEB参加53名の申込)、高校生・看護学生は49名、うち本学学生は27名であった。
- ・テーマ別の分科会である「ゆんたくテーブル」の参加者は約104人(来場参加者77人、オンライン参加者は27人)であった。事後アンケートでの評価は高く、継続開催の要望があった。

(4) 「沖縄からアジアへトビタテ！研修事業」への学生派遣

- ・地域企業(産)、大学等(学)、沖縄県(官)の連携で実施されている研修事業に3名の学生が応募し、1名の研修計画が採択された。この事業は、主体的に行動する国際感覚に富む創造豊かな人材を育成することを目的としている。本学の教員も応募書類について個別指導にあたるなどのサポートを行い、初めてシンガポールに1か月間1名の学生を派遣することができた。学生は自主的に企画したセルフケア(健

康啓発活動など)に関する調査を行った。

3. 次年度に向けた課題

- (1) コロナ禍が落ち着きつつあり、実地でのハワイ大学との交流・研修を再開できる状況となることが期待できる。しかしながら、年々海外研修（ハワイ）の経費が上がっているため、学生の負担を考慮して研修内容の見直しが必要である。

教務委員会

1. 委員会構成

- 委員：◎賀数いづみ、○田場由紀、大川嶺子、山口賢一、赤嶺伊都子、井上松代、
栗原幸子、知念真樹、鈴木ミナ子
- 補佐：知念久美子、具志堅翔子
- 事務局：知念理佐、七條優子

2. 活動概要

- (1) 新カリキュラム（初年度）への円滑な移行と現行（旧）カリキュラムの適切な運営
 - ・新設科目（島嶼・国際保健看護実習、災害看護）を開講した。
 - ・「令和3年度以前の入学生（旧カリ学生）の履修方針」に基づいて旧カリキュラム学生の履修計画を検討した。
- (2) 島嶼環境を活かした教育活動の推進（島嶼モデル型実習の充実）
- (3) 成績評価システムの充実
 - ・4年次学生へ学位授与方針（DP）の自己評価と学習環境への満足度調査を実施した。教務関連事項は対応を検討し、学生及び教員に文書で周知した。
 - ・授業方法について科目責任者へ調査し、多様な授業方法の実施状況を確認した。
 - ・PROGテストを実施し、テスト結果を就職活動に活かせるよう、試験の実施時期を4年次前期から3年次後期に変更した。
 - ・学期末に各科目のGPA分布を確認し、GPAの活用検討に向けて他大学の情報収集を行った。
- (4) 学位授与方針に沿った卒業判定と専門職資格の取得支援
 - ・履修規程に基づいて卒業判定を行った。
 - ・専門資格未取得者の課題を分析し、学生委員会と共同して支援方策を検討した。
 - ・セルフケアに関する特別講義をWEBで実施した。
 - ・合理的配慮ワーキンググループで作成したガイドライン案を検討し、学生委員会での再検討後に受け入れ可能な学生像を決定することとした。
- (5) 教育情報の適切な公表
 - ・大学の目的、理念、新しい3つのポリシーについて新年度ガイダンス、教職員連絡会議、新入職員オリエンテーションの機会に学生・教職員へ周知した。
 - ・教育情報（授業科目、授業方法、内容、年間授業計画、学習の成果に係る評価基準）について、学生便覧、UNIVERSAL PASSPORT（UNIPA）（Webシラバス）、ホームページで公表した。
 - ・個々の学生が各学期の成績が確認できるようUNIPAで公表し、成績不服申し立ての受付案内や結果の通知を、UNIPAを通して学生に周知した。

- (6) カリキュラムの適切な運営
- ・従来の授業評価アンケート内容を検討、実施要項を作成し、後学期より新しい授業評価アンケートを実施した。
 - ・助産実習施設の次年度受け入れ不可があり、2月に新たな施設を確保した。
 - ・非常勤講師の授業の出欠確認のサポート、非常勤講師（教養・専門教養科目）のサポートと対応を適時実施した。
 - ・教養科目の履修理解に向け、新入生ガイダンス及び新学期ガイダンスで教養科目の意義を説明した。
 - ・新年度ガイダンスは遠隔対応も準備し、学生委員会が示したスケジュールに則り、共同して対面で実施した。
- (7) 単位の実質化
- ・カリキュラム移行に伴い、1・2年次は新カリキュラム、3・4年次は現行（旧）カリキュラムの令和5年度時間割を作成、講義室を配置した。
 - ・全科目について、成績評価システムとの整合性が保持されていることを確認した。
- (8) 臨地実習指導体制の整備→「実習専門部会」活動報告書参照
実習専門部会と協働連携し、実習指導体制の整備に必要な①実習施設との連携、②学生の準備性支援、③実習の継続と安定性の確保について遂行した。
- (9) 統合科目を効果的に実施する
- ・「卒業論文」「看護総合演習」の学習成果発表会をハイブリッドで開催した。
 - ・「卒業演習」の技術試験についてスケジュールを見直し、効率的に実施した。
- (10) 海外留学生の受け入れ
- ・台北医学大学の短期留学プログラムを参考に、本学で実行できる留学制度を検討し、必要なリソースを具体的にあげた。
- (11) 教育施設・設備を効率的に活用する
- ・UNIPAでのシラバス作成・成績評価入力を非常勤講師にも導入した。
- (12) 教員・教育補助者・教育嘱託員の教育力を高めるための教育指導体制の整備
- ・看護教育支援専門員は定数を確保し配置した。急な退職による実習指導教員不足の領域には、支援員の配置変更調整で対応した。
 - ・教育活動&交流会を2月に開催した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 新カリキュラムにおける新設科目の適切な実施と原級据え置き学生等の履修計画を適切に実施する。
- (2) 島嶼地域を活かした教育活動における基本方針・内容・課題について、沖縄島嶼保健看護協働センターの基本方針等との整合性をはかる。
- (3) 授業評価アンケートの回収率の向上をはかり、授業改善に活かす。

実習専門部会

1. 委員会構成

委員：◎田場由紀、○宮城裕子、山川和歌子、仲本勉、岡崎実子、下中壽美、
山本真充、光来出由利子、赤嶺唯

2. 活動概要

(1) 令和4年度実習連絡調整会議の運営

令和4年4月に実習連絡調整会議をオンラインで開催した。第一部の参加者は47名（32施設）、第二部は44名（30施設）であった。全員オンライン参加としたため、運営はスムーズであった。また、第二部の意見交換会の成果として報告書をパンフレット形式で作成し、参加施設だけでなく実習施設との情報共有を行った。

(2) 複数の実習科目受け入れ施設の窓口調整

実習受け入れに関するCovid-19の影響が継続する中、実習方法を科目ごとに工夫した。窓口教員を中心に、実習施設の要望にタイムリーに応じながら、臨地での実習を推進した。

(3) 教員の実習前研修計画一覧表の作成

教員の実習前研修計画一覧表を作成した。研修の受け入れについては、Covid-19の影響をふまえ、個別に実習施設と調整しながら実施した。

(4) 実習におけるインシデント・アクシデント情報の把握と関係者との共有

実習に関連したインシデント・アクシデントの報告・情報共有を行った。報告内容について、定義に合わない報告もあり、教員ごとに判断があいまいになっている課題が把握され、報告すべき内容の再点検が必要との課題が明確になった。

(5) 学生の実習進捗状況の把握と教員、実習施設間の情報共有

実習オリエンテーションの実施、参加状況、各実習の進捗状況をその都度適切に情報共有し、評価への反映や補習実習の申請、実習報告などタイムリーに実施された。また、感染対策消耗品の一括購入に向けて予算の効率的な運用を提案した。

(6) 実習の手引きの作成

実習要項、各実習の手引きについて、新カリキュラムも同時に進行している中、計画通りに作成した。

(7) 予防接種マニュアルの運用と教務委員会、学生委員会との連携

実習の事前準備に必要な情報の把握（予防接種状況、ワクチン接種状況など）は、実習前に役割分担に合わせて、適切なタイミングで遂行された。

(8) 令和5年度実習計画の作成

新カリキュラムの移行期であることをふまえて、新カリキュラムの完成年度である令和7年度までの計画案を作成し、教務委員会に諮り、移行期に生じる実習展開上の課題を教務委員会と共有した。

(9) 令和5年度実習連絡調整会議の企画提案

令和4年度の実習連絡調整会議の第二部で実施したテーマごとの意見交換は、領域や施設の垣根を超えたコミュニケーションの場になった。引き続き、多様な視点で協働を模索するため、実習展開のみにこだわらず、教育や人材育成、実践について幅広く討議できるテーマ設定を進めていくことになった。

(10) 令和5年度実習専門部会業務マニュアルの更新

新カリキュラムに伴う実習時期・内容の変更、感染対策消耗品の一括購入および運用について加筆修正し、新年度用に更新した。

3. 次年度に向けた課題

今年度に引き続き新カリキュラムへの移行期であるため、実習時期・内容の変更に留意し、実習施設との調整、実習の手引きの作成および実習オリエンテーションの企画・運営を行う必要がある。

学生委員会

1. 委員会構成

委員：◎金城忍、○山口賢一、山城綾子、牧内忍、赤嶺伊都子、宮國友美、
山川和歌子
事務局：七條優子、蔭久孝政

2. 活動概要

(1) 学生サポーターへの支援

在学生で構成される学生サポーターでの活動で、新入生オリエンテーションでのボランティアや別科修了生、助産専攻の学部学生との交流会など、学生だけでは企画が難しい交流会を企画、支援した。

(2) 離島・過疎地域推薦選抜の新入学生への支援

離島・過疎地域推薦選抜の新入学生支援のため、必要な情報を担当教員へ伝達する仕組み及び指導体制を構築し、学生支援を実施した。

(3) グループ担当学生への面談の実施

グループ担当教員は担当学生の学修支援、生活支援を目的に面談を実施した。面談回数は延べ数で1年次部会は172回、2年次部会は225回、3年次部会は191回、4年次部会は177回であった。

(4) 新型コロナウイルス感染症対策に対する学生ボランティア・アルバイト募集の実施

新型コロナウイルス感染症対策に対して、入院待機センター、保健所、検査センターから支援要請があり、派遣調整を行った。入院待機センターでのアルバイトでは、3名、述べ26日間。南部保健所でのボランティアでは、8/18～9/15の期間、延べ人数、94名、PCR検査センターでは、述べ100名の学生がボランティア活動に参加した。

(5) 学生の経済的支援ニーズの把握

学生の経済的支援ニーズを把握するため、学生の実態調査を行った。さらに、日本学生支援機構の「物価高に対する経済支援金」制度に企画案を申請し、支援金100万円を獲得した。その支援金を活用して、食費を援助する経済的支援を計画した。

(6) 沖縄県看護学術財団奨学生の推薦候補者の選考の実施

沖縄県看護学術財団奨学生の推薦候補者の選考を行い、10名を推薦、各10万円の奨

学金を受給した。

(7) (仮) 学生支援センター設置に向けた基本的な考え方及び基本方針の策定

(仮) 学生支援センター設置に向けた基本的な考え方及び基本方針を策定した。さらに次年度の予定である、支援内容について、これまで実施していた支援内容を6項目に整理した。

3. 次年度に向けた課題

(1) 継続して、学生サポーターへの支援、グループ担当学生の支援、学生の経済的困窮度の把握および支援に努める。

(2) (仮) 学生支援センター設置に向けて、学生支援を一元的に行えるよう、学生委員会のみならず、他の委員会でも実施している学生支援の内容を把握するとともに、必要な支援内容を検討する。

学術情報委員会

1. 委員会構成

委員：◎佐伯宣久、○山城綾子、栗原幸子、池本温美

事務局：七條優子

2. 活動概要

(1) 以下の資料を購入・配信した。

書籍：451点（うちデジタル資料46点）

和雑誌：93タイトル（うちデジタル資料20点）

検索データベース・電子英文専門誌：「医中誌Web」「ScienceDirect」など

(2) 看護師を中心とする学外の利用者403人（入館時に受付簿に利用者番号を記載された方）にサービスを提供した。

(3) 沖縄本土復帰50周年を記念して大学リポジトリ内にデジタルアーカイブ「沖縄医療保健看護史料アーカイブ」を設置し、歴史資料25編の書誌データを公開した。

大学リポジトリ URL：<https://opcnr.repo.nii.ac.jp/>

(4) 「沖縄医療保健看護史料アーカイブ」の設置を記念して公開シンポジウム「沖縄の公衆衛生看護活動の歩み ―戦後から現在、そして未来へ―」を開催した。保健師など保健活動に関わる学外の参加者50人を含む89人の参加者を得ることができ、好評であった。

参加者合計 89人

（内訳）

本学教職員 14人

本学大学院生 3人

他校看護系教員 5人

看護師業務 2人

保健師業務・保健所関係 50人

アーカイブワーキンググループ 2人

その他 13人（看護協会会長、就労支援事業所、
本学元教員など）

- (5) 図書館内で以下のような企画展示をおこなった。
- 5月－ 6月 テーマ「映像化された作品」
 - 7月－ 8月 テーマ「本でめぐる海と島」
 - 9月－10月 テーマ「看護職のためのコミュニケーション」
 - 12月－2月 テーマ①「人権問題」 テーマ②「世界文学全集」
- (6) 診療ガイドラインを集めた「ガイドラインコーナー」を館内に設置した。
- (7) ラーニングコモンズに空気清浄機を設置した。
- (8) JICA 海外協力隊のパネル展を図書館ホールで開催した。
- (9) 2022 年度図書館だよりを発行した。
- (10) 不定期で図書館ミニレターをメール配信して、図書館の最新情報を発信した。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 「沖縄医療保健看護史料アーカイブ」で公開する書誌データを毎年度確実に増やしていく必要がある。
- (2) 電子英文専門誌の利用価格が毎年高くなり続けていることから、図書館関連予算の内訳の見直しを行う必要がある。

別科助産専攻運営委員会

1. 委員会構成

委員：◎西平朋子、○賀数いづみ、宮國友美、大城早苗、高野織恵、井上松代
事務局：七條優子

2. 活動概要

- (1) 令和4年度の行動計画評価の実施と令和5年度の行動計画の策定
令和4年度の行動計画の評価を行い、課題や改善項目に基づき令和5年度の行動計画を策定した。
- (2) 別科助産専攻における人材育成を達成するための事項
令和4年度入学生18人の修了判定を行った。18人が修了となった。
- (3) 実習施設との協働した実習指導環境および指導体制の充実するための事項
 - ①実習連絡会議の企画・実施
予定通り2回実習連絡会議を実施した。実習の課題や改善に向けて建設的な意見交換や情報共有の場となった。
 - ②助産実習施設の確保
コロナ禍で急遽実習受け入れが困難となった施設に配置された学生に対し、新たに他の実習施設と協議・調整を行い、実習を進めることができた。
- (4) 助産専攻科開設に向けたワーキンググループの設置
専攻科開設に向けたワーキンググループ会議を設置し、本県および他県の公立大学助産専攻科の情報収集を行った。入学試験委員会へ入試形態・方法などの情報提供を行った。
- (5) 学生の学習支援・就職支援のための事項
18人全員が助産師国家試験に合格した。また88.9%（18人中16人）が県内へ就職した。
- (6) 入学生確保のための事項
入学試験委員会と協働で対面による学内入試説明会を行った。令和5年度入学希望者21人の参加があった。修了生が作成したDVDの活用や在校生とのフリートークを取り入れるなどの工夫を行った。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 関係機関や実習施設との協働による実習環境および指導体制の充実
 - ①入学定員20人の実習施設確保
 - ②入学定員数の検討
分娩件数や分娩取扱い施設の減少等に伴い入学定員数の実習施設確保が困難な状況が続いているため。
- (2) 別科助産専攻における教育の充実
 - ①看護教育支援専門員等指導者の安定的確保
 - ②専攻科設置準備ワーキンググループによる専攻科設置への取り組みと推進

研究科教務委員会

1. 委員会構成

委員：◎宮里智子、○上原和代、佐久川政吉、謝花小百合
事務局：赤嶺洋哉

2. 活動概要

(1) 大学院教育の実施体制の強化に関する事項

- ① 大学院博士後期課程の指導教員 2 名、および、令和 5 年度採用予定の教員 1 名の大学院博士前期課程の指導教員の教員審査ならびに、科目担当教員 5 名の審査を実施し、教育実施体制の充実を図った。さらに大学院教育指導実績が少ない若手教員 9 名を対象に研究指導能力向上のための FD 教育を実施し、対象教員全員が参加した。
- ② 5 領域の高度実践看護師教育課程の 6 年間の開講計画を作成した。令和 4 年度は実践がん看護のみを開講し、2 名の学生を確保した。その他に令和 3 年度に、島嶼保健看護に特化したプライマリケア看護専攻教育課程に入学した 2 名の院生が学修中で令和 5 年度に修了予定である。
- ③ 博士課程で修得すべき能力について新年度ガイダンスで周知し、年度末に大学院生による自己評価を実施した。また、自己評価の結果を研究指導教員および大学院生全体で共有した。
- ④ 日本看護系大学協議会の高度実践看護師教育課程の小児看護専攻教育課程（実践小児看護）と共通科目の初回の認定から 10 年を迎えることから、認定更新の申請のために、実践小児看護、および、共通科目のシラバスの見直しと修正を行い、申請の準備を進めた。
- ⑤ 授業方法について、新型コロナウイルス感染症の流行拡大の状況に合わせて対面、遠隔、ハイブリッドなどを組み合わせた方法を取り入れ、柔軟に対応した。新型コロナウイルス感染症のクラスターの発生はなかった。

(2) 質の高い人材育成を達成するための事項

- ① 令和 4 年度の修了予定者の主査、および、副査を研究科委員会へ提示して審議、決定し、学位論文審査体制を整えるとともに、研究指導教員に対して、学位論文審査と審査結果要旨の記述に関するオリエンテーションを実施した。また、学位論文の質を担保し、大学院生の研究指導を複数体制で実施することを実質化するために、研究計画・結果検討会、および、中間発表会を開催し、個別指導だけでなく、集団での研究指導を行った。博士前期課程 5 名、博士後期課程 1 名が修了となった。
- ② 前学期と後学期ともに、学生および研究指導教員から提出された研究指導計画書に

より研究指導の進捗状況を確認した。履修中の学生：博士前期課程 20 名、博士後期課程 7 名(休学 2 名除く)、計 27 名

- ③ 大学院修了生の動向の把握、および、活用のためのしくみとして、院生が大学院修了時に個人メールアドレス等の情報を入力するサイトを大学ホームページに開設し、運用を開始した。入力された情報は研究科教務委員会で一元管理し、大学院修了生の動向の把握、および、活用する。
- ④ 前年度に研究指導教員を対象として実施した「論文投稿等への修了生への支援」の調査結果を分析した。その結果、研究会での検討やメールでの丁寧な指導を継続的に行うことが、学位論文の投稿につながっていることが分かった。また、修了生を学部や大学院の授業に活用することも、知識の確認の機会となるため、修了生の支援につながっていた。分析結果は令和 5 年度ガイダンスで研究科教員と共有する予定である。

(3) 教育の充実を達成するための事項

- ① 中間発表会の抄録を標準化するために、内規に沿った様式を提示したが、指定の様式で提出していない院生もあり、抄録が統一されていなかった。周知を徹底するとともに、論文執筆マニュアルの点検と更新、および、周知をはかり、体系的に教育を行えるようにする必要がある。
- ② 令和 4 年度修了生の研究指導教員、および、研究指導補助教員へ初稿完成度の向上につながった、あるいは、つながらなかった指導方法、最終稿の完成度につながった指導方法について意見を聴取した。初稿完成度の向上につながった指導方法は、定期的な指導、計画・結果検討会など節目に他領域の教員を交えた指導であった。初稿完成度の向上につながらなかった指導方法は、大学院と学部の卒論指導時期の重なりによる指導時間の確保の難しさであった。最終稿の完成度の向上につながった指導方法としては、集団指導における副査の助言と中間報告会の際の指摘・助言であった。本調査結果を研究指導教員と共有した。
- ③ 島嶼保健看護を専門とする本学の大学院修了者を対象に、ナースプラクティショナー教育課程として承認されている、実践島嶼保健看護領域を受験するための特別人材育成枠を設け、入学試験を実施した。特別人材育成枠での合格者数は 4 名であった。また、教育プログラムを作成したが、特別人材育成枠の入学試験と教育プログラムは、各領域の修了生向けのプログラムの素案となる可能性がある。

(4) 大学運営の効果的な実施を達成するための事項

- ① 年度始めに、履修科目の登録やシラバスの閲覧に関するシステムのトラブルが多数発生したが、随時対応してシステムを修正し、履修登録が行えるよう対応した。
- ② 中間発表会と公開発表会をオンラインと対面のハイブリッドで開催し、また、遠隔

授業のサポートを行うなど、情報ネットワークを活用し、効果的に大学院教育が行えるよう取り組んだ。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 予定していた実践小児看護師教育課程は教員確保が十分でなかったため、開講できなかった。今後は、研究指導教員が確保できている領域から高度実践看護師教育課程を開講できるよう、6年間の開講計画を見直しする必要がある。
- (2) 博士課程で修得すべき能力の自己評価結果の研究指導への活用、および、「論文投稿等への修了生への支援」の分析結果の活用と修了生の投稿論文数の増加が課題である。また、今年度に把握した「初稿完成度の向上に向けた取り組み」を次年度以降の研究指導教員が実施できるような仕組みづくりを行う必要がある。
- (3) 論文執筆マニュアルの点検と更新、および、周知をはかり、体系的な教育の実施が課題である。
- (4) 特別人材育成枠で入学した院生の修了と教育プログラムの評価を行う必要がある。

研究科入試委員会

1. 委員会構成

委員：◎宮里智子、○上原和代、田場由紀、謝花小百合

事務局：長田大地

2. 活動概要

(1) 学生の確保を達成するための事項

- ① 従来的一般選抜に加え、看護職の実務者を対象にした英語試験を行わない選抜方法の検討や今年度初となる島嶼枠での入学試験を実施するなど、受験生の背景に応じた選抜方法を検討し実施した。島嶼枠での合格者数は1名であった。
- ② 島嶼保健看護を専門とする本学の大学院修了者を対象に、ナースプラクティショナー教育課程として承認されている、実践島嶼保健看護領域を受験するための特別人材育成枠を設けた。特別人材育成枠での合格者数は4名であった。
- ③ 令和4年6月5日に、大学院入学試験受験予定者等を対象に英語学習方法に関する学び直し勉強会を開催し、8名が参加し、6名（75%）が大学院を受験した。
- ④ 令和4年6月17日に、学生募集説明会を、対面と遠隔のハイブリッドで行った。対面9名、遠隔3名の12名が参加し、昨年の6名よりも多くの参加者が得られた。12名のうち6名が受験した。
- ⑤ 博士前期課程から引き続き後期課程へ出願及び入学する場合の入学考査料及び入学料について、徴収しないものとする規程の改正を行った。
- ⑥ 博士前期課程は10領域中6領域12名が合格した（島嶼枠1名、特別人材育成枠4名を含む）
博士後期課程は2次募集で、2領域2名が合格した。また、他大学からの転入学者1名を許可した。
- ⑦ 入学試験実施スケジュール、および、実施要領に基づく入学試験を実施した。試験実施における新型コロナウイルス感染症対策についても要領に明文化しており、概ね円滑に試験を実施した。

(2) 適切に入学試験を行うための事項

- ① 学生受入れ方針に沿って受け入れを行うために作問チェックリストを作成し、アドミッション・ポリシーと入学者選抜試験問題との整合を点検した。
- ② 入学者選抜試験問題を標準化するために作問等に関連する基準の追加や見直しを行った。

3. 次年度に向けた課題

- (1) 博士後期課程の定員数を、一次募集で確保することは以前からの課題であるが、引き続き中長期的な視点で、人材育成の在り方を検討する。
- (2) 英語試験を課さないことについて、大学院の入学者を選抜するうえで適切であるか引き続き検討が必要である。

IRワーキンググループ

1. 委員会構成

委員：◎佐伯宣久、金城芳秀、栗島一博、 サブメンバー：渡久山朝裕、上原和代

2. 活動概要

- (1) 令和3・4年度に実施された新制度での学部入試について IR 分析を行った。
 - ・特別選抜の2枠（離島へき地選抜・高校推薦）ならびに一般選抜（前期・後期日程）の入学生の前学期の必修科目の成績を分析したところ、選抜枠の間で特に差はなかった。

- (2) 卒業生の総合成績（Grade Point Average, GPA）と入試データを用いた分析を行った。
 - ・選抜枠と GPA の間に特に差はみられなかった。
 - ・センター試験の成績と GPA の間に特に関連はなかった。

- (3) 令和7年度学部一般選抜の入試デザイン（個別学力テストと大学入学共通テストの配点比率など）を検討するために、2016-2022年度入試のデータについて分析を行った。

3. 次年度に向けた課題

- (1) IR 分析に利用可能な形態で学内の情報を収集し蓄積するプラットフォームの構築が必要であり、令和5年度はその検討を行う。

沖縄県立看護大学 科学研究費助成事業新規/継続課題一覧(令和4年度)

No.	研究種目	課題番号	研究課題名	研究代表者名	部局名	職名	研究期間	研究費総額
1	基盤研究(C)	15K11639	沖縄独自の死の文化を基盤にした看取り教育プログラムの開発	謝花 小百合	保健看護学研究科	准教授	2015年度～2022年度	4,810,000円
2	基盤研究(C)	17K12412	地域の生活文化を基盤にした高齢者ケアの創出のプロセス評価	大湾 明美	保健看護学研究科	研究員	2017年度～2022年度	4,550,000円
3	基盤研究(C)	17K12478	老母親を在宅介護する統合失調症者の地域生活継続のための支援方法の開発	大川 嶺子	保健看護学研究科	教授	2017年度～2022年度	1,690,000円
4	基盤研究(C)	17K12479	「オオキナ和」プロジェクトによる相互扶助を活かした地域包括ケアシステム開発	佐久川 政吉	看護学部	教授	2017年度～2022年度	4,420,000円
5	基盤研究(C)	18K00876	アメリカのリーディングプログラムと多読図書の効果的導入に関する研究	山城 綾子	看護学部	准教授	2018年度～2023年度	3,510,000円
6	基盤研究(C)	18K10437	島しょのユイマールを活かした在日外国人母子もいる子育て支援モデルの構築	西平 朋子	別科助産専攻	准教授	2018年度～2022年度	4,290,000円
7	基盤研究(C)	18K10438	DV被害女性患者のスクリーニングおよび対応についての看護実践とその評価	井上 松代	保健看護学研究科	准教授	2018年度～2023年度	4,420,000円
8	基盤研究(C)	19K10809	看護学生のシビリティー(civility)を育むアクションリサーチ	金城 芳秀	保健看護学研究科	教授	2019年度～2023年度	4,420,000円
9	基盤研究(C)	19K11172	島嶼地区の高齢女性とともに探る人口減少の看護対策—島での子育て文化に学ぶ—	野口 美和子	保健看護学研究科	名誉教授	2019年度～2023年度	4,160,000円
10	基盤研究(C)	19K11281	小離島の「互助」を活かした高齢者ケアの創出を推進する看護実践モデルの提案	田場 由紀	看護学部	教授	2019年度～2023年度	4,030,000円
11	基盤研究(C)	20K10668	小離島勤務保健師へのICTを活用した継続教育プログラムの開発	知念 真樹	看護学部	准教授	2020年度～2023年度	2,080,000円
12	基盤研究(C)	20K10916	10代母親の支援必要度測定尺度に関する実用可能性の検証	賀数 いつみ	看護学部	教授	2020年度～2023年度	3,380,000円
13	基盤研究(C)	20K10945	助産師の周産期メンタルヘルスケア実践能力向上のための教育支援プログラムの開発	下中 壽美(前盛壽美)	看護学部	助教	2020年度～2023年度	4,160,000円
14	基盤研究(C)	21K10725	孤立型離島に居住する糖尿病患者の心理的自己管理促進要因の探求的研究	宮城 裕子	看護学部	助教	2021年度～2023年度	3,510,000円
15	基盤研究(C)	21K10945	IPV被害女性における生活習慣病の発症およびリスク要因の解明と看護実践への応用	赤嶺 伊都子	保健看護学研究科	准教授	2021年度～2023年度	4,160,000円
16	基盤研究(C)	22K10710	太平洋島嶼国との融合を目指すグローバル教育を基盤とする島嶼看護の継続教育の構築	神里 みどり	保健看護学研究科	教授	2022年度～2024年度	4,160,000円
17	基盤研究(C)	22K11123	自宅で配偶者の看取り体験をした遺族高齢者を「互助」に活かす地域ケアの創造	大湾 明美	保健看護学研究科	名誉教授	2022年度～2024年度	2,210,000円
18	基盤研究(C)	22K11210	へき地医療拠点病院に入院する離島在住高齢者の退院支援	田場 由紀	看護学部	教授	2022年度～2024年度	2,470,000円
19	基盤研究(C)	22K11268	琉球弧の小離島診療所看護師と住民との協働による島嶼包摂ケアの創出	佐久川 政吉	看護学部	教授	2022年度～2024年度	2,340,000円
20	若手研究	18K17573	日本語版退院準備性尺度親用の実用化と海外への発信	上原 和代	看護学部	准教授	2018年度～2023年度	1,820,000円
21	若手研究	19K13886	日本による沖縄・台湾の植民統治における近代医療施設の役割	山口 賢一	看護学部	准教授	2019年度～2023年度	3,380,000円
22	若手研究	19K19504	ルーラル地域で働く看護職者に必要なコンピテンシーと教育プログラムの開発	野田 千代子	看護学部	研究員	2019年度～2022年度	4,290,000円
23	若手研究	19K19538	リフレクションを取り入れた看護技術演習プログラムの構築	栗原 幸子	看護学部	准教授	2019年度～2023年度	1,560,000円
24	若手研究	19K19769	要介護高齢者の社会貢献による生きがいづくりを推進する看護実践モデルの開発	砂川 ゆかり	看護学部	助教	2019年度～2022年度	1,430,000円
25	若手研究	20K19064	離島に特化した乳がん患者の受診遅延者の特徴と看護援助の方略	大城 真理子	看護学部	助教	2020年度～2022年度	4,160,000円
26	若手研究	20K19104	在宅で補助人工心臓を装着する終末期心不全患者と介護者の支援モデルの構築	永野 佳世	看護学部	研究員	2020年度～2022年度	2,990,000円
27	若手研究	22K17476	外来で査定可能な頭頸部がんサバイバーの晩期有害事象と生活支障評価票の開発	源河 朝治	看護学部	助教	2022年度～2024年度	2,080,000円